

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	早稲田大学
設置者名	学校法人早稲田大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
政治経済学部	政治学科	夜・通信	29	18	—	47	13	
	経済学科	夜・通信	29	18	—	47	13	
	国際政治経済学科	夜・通信	29	18	—	47	13	
法学部	—	夜・通信	29	—	14	43	13	
文化構想学部	文化構想学科	夜・通信	29	32	2	63	13	
文学部	文学科	夜・通信	29	32	40	101	13	
教育学部	教育学科	夜・通信	29	—	14	43	13	
	国語国文学科	夜・通信	29	—	14	43	13	
	英語英文学科	夜・通信	29	13	—	42	13	
	社会科	夜・通信	29	—	14	43	13	
	理学科	夜・通信	29	6	8	43	13	
	数学科	夜・通信	29	13	—	42	13	
	複合文化学科	夜・通信	29	12	2	43	13	
商学部	—	夜・通信	29	22	—	51	13	
基幹理工学部	数学科	夜・通信	29	14	—	43	13	

	応用数理学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	情報理工学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	機械科学・航空宇宙学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	電子物理システム学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	表現工学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	情報通信学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
創造理工学部	建築学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	総合機械工学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	経営システム工学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	社会環境工学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	環境資源工学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
先進理工学部	物理学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	応用物理学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	化学・生命化学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	応用化学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	生命医科学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
	電気・情報生命工学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
社会科学部	社会科学科	夜・通信	29	22	—	51	13	
人間科学部	人間環境科学科	夜・通信	29	31	—	60	13	
	健康福祉科学科	夜・通信	29	31	—	60	13	
	人間情報科学科	夜・通信	29	31	—	60	13	
スポーツ科学部	スポーツ科学科	夜・通信	29	13	—	42	13	
国際教養学部	国際教養学科	夜・通信	29	14	—	43	13	
人間科学部（通信教育課程）	人間環境科学科	夜・通信	8	17	—	25	13	

	健康福祉科学科	夜・ 通信	8	17	—	25	13	
	人間情報科学科	夜・ 通信	8	17	—	25	13	
(備考) ※表中の「—」は、該当科目が設置されていない、または該当科目は設置されているものの、その他の科目区分において当該学科の「省令で定める基準単位数」を満たすため、計上していない。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/curriculum>

実務経験のある教員等による授業科目(大学等における修学の支援に関する法律施行規則 第二条第一項第一号関係)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	早稲田大学
設置者名	学校法人早稲田大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学 Web ページによる公表 https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/office/executive
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(前職) A G C 株式会社 社外取締役	2018. 11. 8 ～ 2022. 9. 20	経営総括
非常勤	(前職) 日本化薬株式会社 社相談役 (現職) 早稲田大学校友会 代表幹事	2018. 11. 8 ～ 2022. 9. 20	校友連携
非常勤	(前職) 早稲田大学教員	2019. 4. 1 ～ 2022. 9. 20	募金総括
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	早稲田大学
設置者名	学校法人早稲田大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
■授業計画書(シラバス)の作成過程 例年9月下旬に行われる全学部の教務主任が参加する会議において、翌年度のシラバスの作成にあたっての注意点を周知し、授業概要、授業の到達目標、事前・事後学習の内容、授業計画、教科書、参考文献、成績評価方法について適切に記載するよう指示している。記載内容の確認は各学部にて行っている。 ■授業計画書の作成・公表時期 上記の会議体での全学的な方針決定を受けて、10月頃より各学部において各担当教員にシラバスの執筆を依頼する。提出されたシラバスについて各学部において確認を行い、適宜修正したうえで、例年3月中旬までには翌年度のものを公表するようにしている。	
授業計画書の公表方法	https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各科目の講義要項(授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業の実施概要)の成績評価方法に基づき、適切に単位を与え、履修を認定している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

■ GPA等の客観的な指標の具体的な内容（指標の算出方法など）

GPAの算出方法は以下のとおり。

評価区分	GP
A+	4
A	3
B	2
C	1
不合格	0

◎計算式

$$\left(\left(\text{「A+」の修得単位数} \right) \times 4 + \left(\text{「A」の修得単位数} \right) \times 3 + \left(\text{「B」の修得単位数} \right) \times 2 + \left(\text{「C」の修得単位数} \right) \times 1 \right) \div \text{総履修単位数 (A+,A,B,C,不合格科目)}$$

※卒業要件に算入されない科目はGPA算出の対象外としている。

■客観的な指標の適切な実施状況

上記の全学共通の評価区分によるGPおよび計算式により機械的にGPAを算出している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/curriculum>
GPA (Grade Point Average) について

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

■卒業の認定に関する方針の具体的な内容

各学部において学位授与の方針を定めて、Webサイトで公表している。

■卒業の認定に関する方針の適切な実施状況（卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している旨を記載すること）

各学部で定めた卒業の認定・学位授与の方針に基づき予め学生の入学年度等の毎に設定された卒業要件を満たしていることを確認し、卒業の認定をしている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/policy>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	早稲田大学
設置者名	学校法人早稲田大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/financial-affairs/financial-statements
収支計算書又は損益計算書	https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/financial-affairs/financial-statements
財産目録	https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/financial-affairs/financial-statements
事業報告書	https://www.waseda.jp/top/about/work/reports
監事による監査報告(書)	https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/financial-affairs/financial-statements

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 学校法人早稲田大学 2022 年度事業計画 対象年度: 2022)
公表方法: https://www.waseda.jp/top/about/work/reports
中長期計画(名称: WASEDA VISION 150 対象年度: 2012-2032)
公表方法: http://www.waseda.jp/keiei/vision150/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 早稲田大学 Web サイト_大学点検・評価 https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/academic-affairs-division/evaluation
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 早稲田大学 Web サイト_大学点検・評価 https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/academic-affairs-division/evaluation
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	政治経済学部：政治学科、経済学科、国際政治経済学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.waseda.jp/fpse/pse/about/3policy/ ）	政治経済学部は、第一に、グローバルな共生社会の一員として、グローバル・パースペクティブをもち、ダイヴァーシティを互いに尊重できる人間の育成を目標とします。秋入学・英語学位プログラム(EDP)を通じて、多様で質の高い留学生を受け入れるとともに、内からのグローバル化の教育拠点として、気概と知的能力においてグローバル・リーダーシップを目指すにふさわしい人間をここ早稲田で育てています。その一貫として、卒業までに海外留学を経験することを学生に推奨すると共に、グローバル化した世界の共通語としての英語の教育言語としての重要性をふまえ、学部におけるカリキュラムを日英両言語によるハイブリッド型をさらに進めています。外国語コミュニケーション能力の高いレベルを目標として設定し、それをすべての学生が達成できるよう促す教育を推進しています。また、このようにして、教室自体をマルチカルチュラルな教育空間とすることによって、そのなかから、地球社会における望ましい共生の実現に貢献しようとするグローバルな人材を育てます。 第二に、これからの地球社会を力強く切り拓いていくことのできる自律的な人間を育てるために、なによりも自学自修の教育理念を大切にします。伝統の「ゼミ」を進化させ、少人数教育を、入学時の基礎演習から専門の演習を通じた卒業論文指導まで徹底させることによって、参加しながらともに学び合うことを通じて、人間形成と知的能力の自己開発を促します。早稲田大学はつねにさまざまな人々の自由で活気ある出会いと切磋琢磨の場でした。この伝統のもと、「共に語り、共に活動し、共に生きる」ことを通じて、人の心を理解・尊重できる人間性をはぐくみ、的確な行動への基盤を形成します。こうした人材こそが社会の原動力となり、地域そしてグローバルな世界の発展に貢献し、持続可能な未来を切り拓くという人類にとっての目標の実現につながると確信しているからです。 このような本学部の教育の根本をなす学問理念は、“Philosophy, Politics, and Economics” に集約されます。共生社会の善き生と正義の実現に寄与することを目指し、公共哲学によって結びつけられる政治学と経済学の追究の中から、在野の精神に立ってグローバル社会の未来を切り開く自律的な人間を育成すること、これこそが伝統の政治経済学部の使命です。それにもとづいて、「広い視野と深い問題意識をもち主体的に社会に参画する人材の養成」を目標とする教育が実践されています。政治学・経済学分野での専門的な知識を身につけ深い見識を涵養するとともに、幅広い教養と確かな外国語能力を身につけることによって、自ら問題を発見し、それを広い視野から多角的・批判的に考え、建設的な解決策を提案できる能力を養うことが学生諸君に強く期待されています。 ● 政治学科 政治学科は、学問の独立と自律的な市民社会の確立という建学の精神を今に受け

継いでいます。その精神は、経済学との密接な連携により、生きた政治現象を分析し、日本から世界に発信できる学問をめざすという高い理想に反映されています。制度や理論・歴史や思想・地域や国際関係など多くの領域にまたがる複合的な学問領域としての政治学にふさわしい段階的・体系的カリキュラムを準備し、セミナー等の少人数教育を組み合わせることで、政治現象を専門的かつ主体的に考えることのできる人材を育成します。建設的な批判精神をそなえ、国際・政治・経済・言論・公務など多様な分野で冷静に、献身的にそしてグローバルに活躍できるリーダーの養成をめざします。専任教員は豊富な海外経験を生かしつつ、多岐にわたる政治学研究の最先端に参画し、経済学をはじめとする隣接諸科学との学際的協働を実践します。

- **経済学科**

経済学科は経済についての専門的な学識をそなえ、それをもとに社会の発展に寄与する人材を育成します。経済現象は、人間生存に必要なものを産み出し行き渡らせるという、個々人の生活ひいては社会全体を支えている営みのあらわれです。それを理解するための切れ味鋭いツールが経済学です。複雑化・多様化する社会・経済に合わせて、経済学も進化しています。このため、経済学をツールとして身につけるためには、基礎から徹底して学ぶとともに、関心をもつ分野にそれを応用することが望まれます。経済学科では、段階的科目履修制と豊富な応用分野科目によって、その目的に沿ったカリキュラムが組まれています。また、演習をとおして、主体的に議論し、考えをまとめあげる力をそなえた人材が育ちます。教員の教育研究活動はこの目標を見据え、経済学の最先端に参加し、政治学をはじめとする隣接諸科学との学際的協働をめざします。

- **国際政治経済学科**

国際政治経済学科は政治学・経済学の体系的な知識の上にたって、時代と国境を越えるという意味でグローバルなヴィジョンにたった政治経済制度刷新と改善のための政策提言をおこない、人類社会の発展に寄与する人材を育成します。われわれの社会が抱えるどのような問題も、歴史的文脈のなかでの現代と国際相互依存という脈絡を抜きにしては的確に理解できません。また、国際社会のあり方も変わりつつあり、社会のあり方そのものに対する新たな視座が必要となっています。政治学と経済学の高度な融合に基づき現実の問題を分析し、解決策を提案できる能力、そしてそれを実現すべく行動する力をそなえた人材は、まさに混沌とした現代という社会状況が真に求めているものです。教員の教育研究活動はこの目標を見据え、学問の最先端に参加し、学際的活動の中で新たな学問分野構築に挑戦します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.waseda.jp/fpse/pse/about/3policy/>）

政治経済学部は、早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、グローバル社会に主体的に貢献できる人材を育成する。政治学・経済学分野における専門的知識、国境を越えたコミュニケーションのための確かな外国語能力、自己と他者に対する多角的認識を可能とする幅広い教養を身につけることによって、グローバルな社会、とりわけ日本を含むアジア地域社会に主体的に参与し、また国際的機関等において存分にその能力を発揮できるような人材が、政治経済学部の卒業生に求

められる人物像である。こうした能力を確実に身につけた上で卒業を迎えられるよう、相対評価や GPA の導入等の施策により、単位の修得がそのまま能力の証明となる形でカリキュラムを運営し、卒業する学生の質の確保を図りたい。

政治経済学部には、従来からの日本語学位プログラム（JDP）と、2010 年にスタートした英語学位プログラム（EDP）があり、それぞれが政治学科、経済学科、国際政治経済学科の 3 つの学科をもつ。これらすべてに共通する理念は “Philosophy, Politics and Economics（PPE）” である。哲学的な理念のもとに政治と経済に関する専門知を身につけることが、すべての卒業生に期待される。さらに 1 年次から 4 年次に至るまで演習（ゼミ）の一貫した履修を強く推奨することで、問題の発見能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、論文作成能力を十分に習得することが期待されている。

● 政治学科

政治学科目を中心として、外国語科目、グローバル科目、分析手法・方法論科目、経済学科目などをバランスよく学習することを学位授与の要件としている。とくに現代のグローバル化した複雑な政治現象を理解するために政治学に関する高度な理解の達成が重視されている。近年の政治学の展開に対応して、数理的および経験的分析手法の習得が推奨されていると同時に、政治哲学の規範・理念やそれを理解するための歴史も学ぶことが求められる。必修科目を含む入門科目、選択必修科目を含む中級・基礎科目、上級・専門科目などの政治学科目を計画的に履修するだけでなく、政治現象を経済現象との関連で理解する姿勢を涵養するために経済学の基礎を理解することも求められている。政治現象を専門的かつ主体的に考えることができる人材を育成し、建設的な批判精神をそなえ、国際・政治・経済・言論・公務など多様な分野で冷静に、献身的にそしてグローバルに活躍できるリーダーを育成する。

● 経済学科

経済学科は、経済学をコアとする体系的かつ多様な科目群を提供することで「グローバル化が急速に進む今日の社会が直面する諸課題の解決に向けて主体的に行動できる人材の育成」を目指す。そのため、経済学科生には、経済理論と統計学の基礎を正確に理解するとともに、経済理論の応用力、データ解析能力ならびにコミュニケーション能力を高いレベルで習得して卒業するよう、必修科目、選択必修科目に加え、体系的に整理された経済学科目と分析手法科目、演習科目が提供されている。また、政治学科目、グローバル科目などの履修を通じて幅広い教養と多角的な視点を培うことが強く推奨される。経済学科卒業生には学部で習得した能力を基礎として卒業後も研鑽を重ね、多様な分野にわたる内外の民間企業や公的機関において優れたリーダーとして活躍することが期待される。

● 国際政治経済学科

本学科は、政治学と経済学を高度に融合し、体系化したカリキュラムを通じて得た専門知識と応用力を備えた人材、現代社会の歴史的な文脈と相互依存を十分把握したうえで、グローバルで多角的な視点から現実問題を分析し、解決策を提案・実行できる人材の輩出を目標としている。特に、少人数演習や留学生との交流が

ら生まれる他者の個性を尊重し協力する姿勢を生かし、特定分野の理論や知識に頼りすぎることなく、多様な立場を考慮しながら柔軟で冷静な問題の分析と解決策の提示ができる人物を育成する。また、幅広い学習を通じて得た自信を礎に、忍耐強く問題に取り組むことのできる行動力をもつ人材を送り出すことにも努める。さらに、EDP の専門科目履修により、確かな方法論に裏打ちされた分析とその報告を日英両言語で行う力を習得させ、海外でも即戦力として貢献できる能力の育成にもつなげる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fpse/pse/about/3policy/>)

ディプロマ・ポリシーに示された各種の能力を着実に養成するために、政治経済学部では従来から体系的な政治・経済学科目、充実した外国語科目、幅広い教養科目（グローバル科目）により構成される基幹的なカリキュラムを運営してきた。1 年次生から 4 年次生までの在学生全体をカバーする演習授業を核とした少人数クラスの設置、英語力を保証するための能力別クラス編成、JDP 在学生にも英語で専門科目を学ぶ機会を与える EDP カリキュラムとのハイブリッド化、到達目標を設定した第二外国語カリキュラムの体系化、ダブルディグリープログラムを核とする留学生の派遣・受入の促進などの施策を行っている。また卒業生（政経稲門会）との交流やインターンシップへの参加など、卒業後を見越した学外の活動に参加する機会も豊富に設けている。政治経済学部に入学生は、これらの一連のカリキュラムを通じて、ディプロマ・ポリシーに示されるような多面的能力を備えた人材となることが期待されている。とりわけ、少人数によるアクティブラーニングの機会となる演習科目には、基礎演習、アカデミックリテラシー演習、さらには専門演習（政治学演習、経済学演習、国際政治経済学演習、学際領域演習、ジャーナリズム・メディア演習）がある。各専門演習で順次作成して、卒業前に提出する演習論文には別途単位が付与される。

● 政治学科

政治学とは、哲学・法学・歴史学などに関連の深い伝統的な研究から経済学の知見や方法を積極的に援用する現代的な研究まで、特定の地域や制度を掘り下げる研究からグローバルな比較と総合を視野に入れた研究まで、現象の体系的で因果的な把握を目指す研究から制度や政策の規範的評価や立案を目指す研究まで、多くの領域を横断し多様な方法を駆使する複合的な学問である。政治学のこうした特質に相応しい段階的・体系的カリキュラムが準備されている。政治学科目では、まず入門科目として、政治分析入門と公共哲学（政治）の 2 科目を必修として、日本政治論入門と国際関係論入門のいずれかを選択必修として履修する。これによって高校卒業後大学での専門的な学習へのスムーズな移行を可能にしている。その上で中級・基礎科目として、現代政治分析、比較政治学、国際政治学、公共政策、政治理論史の 5 科目のうち 3 つを選択必修として履修することで、政治学の特定の側面を深く学ぶ基礎を築く。これら選択必修科目の他にも、5 つの専門領域ごとに、多様な中級・基礎科目および上級・専門科目を配置して、それらを体系的に選択することができる。政治学演習を中心とする演習（ゼミ）は、専門的なテーマについて少人数で議論する重要な機会になる。さらに統計学、ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門を必修とすることで、政治現象を厳密な科学的方法を用いて把握し、経済現象との関連で分析する基盤を築くことができる。

- **経済学科**

経済学科のカリキュラムの基本理念は、「今日のグローバル社会が直面する諸課題を理解し解決していくためには、理論的な支柱と客観的なデータ解析能力が必要とされる」という信念にある。経済理論と統計学に関しては基礎から大学院初年度レベルまで日英両言語で段階的に学ぶことができるカリキュラムが整備され、理論系科目については演習クラス、統計系科目については統計ソフトを用いた実習クラスも用意されている。また、充実した経済思想・経済史科目群からは経済学的なアプローチの有効性と限界、そして代替的アプローチについて学ぶことができる。さらに、経済政策および国際経済の領域では、特定の分野について深く学ぶことも、多くの分野を広く学ぶことも可能なように科目が配置されており、これらを各自の関心に応じて履修することで、具体的問題に関する知識を深めるとともに、経済理論の応用力とデータ分析能力を向上させることができる。経済学演習を中心とする演習（ゼミ）など少人数クラスにおいては、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションの機会を豊富に用意し、分析力とコミュニケーション力を一層高いレベルに引き上げることを目指す。

- **国際政治経済学科**

本学科のカリキュラムは、国境や時代を越える大局的な視点から、国内・国際社会における政治・経済のしくみとその関連を分析する力を養うように構成されている。まず、PPE の理念に基づいて公共哲学、政治学、経済学の基礎科目それぞれを必修として、バランスよく配置するところに特徴がある。また、それらの学問を専門的に学習するための共通基盤となる分析手法・方法論科目として、統計学、ゲーム理論入門、経済数学入門を必修科目として設定する。同時にコミュニケーション能力や視野を広げるための必修を含む外国語科目やグローバル科目も幅広く提供する。

-

- 政治学科目としては、政治分析入門、公共哲学（政治）、国際関係論入門を必修とし、現代政治分析、比較政治学、国際政治学、公共政策、政治理論史の5科目のうち1つを選択必修とする。経済学科目としては、ミクロ経済学入門およびマクロ経済学入門を必修とするだけでなく、経済政策、日本経済論、公共哲学（経済）も必修とする。こうして政治学・経済学双方の基礎を着実に身につけた上で、中級・上級レベルの政治学科目と経済学科目とをバランスよく履修することにより、幅広い視点と分析力・応用力を養う。さらに、国際政治経済学演習をはじめとする少人数の演習（ゼミ）では、自ら課題をみつけて研究を遂行し、その成果を効果的に報告する力をつける。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fpse/pse/about/3policy/>）

政治経済学部は、早稲田大学の校旨である『学問の独立』の教育理念のもと、高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れる。こうした学生の質の高さ、および多様性を確保するため、政治経済学部では一般選抜、大学入学共通テスト利用入学試験、推薦入試、グローバル（海外就学経験者）入学試験の4つを核とする入学試験を実施し、推薦入試、グローバル（海外就学経験者）入学試験については門戸を

国外にまで開放して、多くの受験機会を提供している。受験生に期待されるのは、学習の土台となる母語および英語を核とする言語運用能力や論理的思考力、自身の立ち位置を認識するために必要となる歴史・文化的知識、そして世界中の人々と交流しながら様々な問題に立ち向かう行動力であり、上述の各種入学試験ではこれらの知識・能力を多面的に考查することになる。

- **政治学科**

政治学科は、学問の独立と自律的な市民社会の確立という建学の精神を今に受け継いでいる。その精神は、経済学との密接な連携により、生きた政治現象を分析し、日本から世界に発信できる学問をめざすという高い理想に反映されている。入学者にはこのような学科の伝統を発展的に継承できる人物であることを求める。高校までの基礎学力を十分に備えたうえで、現代の政治や経済などの社会的現象に対する強い関心、新しい時代に対応した理解力・分析力・コミュニケーション能力・行動力を身につけようとする姿勢、的確な知識と豊かな創造性に裏付けられた意見表明を通じて地域、日本そして世界の創造的發展に貢献しようとする意欲など、多様な背景をもつ者を選抜する。こうして選抜された学生が、政治学という学問の場でお互いに切磋琢磨することを通じて、学問的深みと人間的成熟を追求する場となることを目指す。

- **経済学科**

経済学科における入学者選抜の基本理念は、「経済を中心とした社会現象を論理的に理解し説明することに深い関心と素養をもつ学生を選ぶ」ことにある。このことは、政治経済のみならず広く社会の現状と歴史に関心を持つことに加えて、論理的思考を重視する学生が望まれることを意味する。経済学を習得し社会現象の理解に活用するためには、一定程度の数理的能力が不可欠である。たとえ多少の苦手意識があっても、数理的に展開される論理を根気よく追跡する姿勢が必要とされる。政治経済の現在や過去に関する豊富な知識を持つ学生、数理的思考に長けた学生、国際関係に強い関心を持つ学生など、多様な学生がそれぞれの長所を活かしつつ切磋琢磨する過程で社会経済現象の論理的な分析力を身につけていくことが理想である。このため、複数の入試形態によって、さまざまな長所をもつ学生を集めるように努力する。

- **国際政治経済学科**

現代の国際社会における政治・経済などの諸現象とその結びつきに強い関心を持ち、グローバルな課題を自分たちの問題として専門知識を用いて分析した上で実現可能な解決方法を探り、地域や世界の発展に役立ちたい、という気概をもつ学生を求める。また国際化社会に対応できるコミュニケーション能力と論理的な思考法、さまざまな人々の立場を思いやれる幅広い感受性を備え、積極的かつ自省的に行動ができる者が望ましい。特に政治・経済を中心とした幅広い学問領域について、既存の枠にとらわれずに新たな知見や多様な考え方を吸収しようとする学生の好奇心を尊重する。あわせて、必修科目の多さにも気後れせず、日英両言語による専門科目を積極的に履修する意欲を持ち、分析力・思考力・実行力を身につける努力を惜しまない学生が望まれる。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.waseda.jp/folaw/law/about/policy/ ）
法学部は、社会的使命感の強い法律実務家や、法実務を法理論によって制御する法学研究者の養成に止まらず、成熟した市民社会を担うことのできる人材一般を育成する。この人材に求められる資質の一つである法的判断力の涵養が本学部の教育目的である。法的判断力は、普遍的に妥当する法規範を、個別的、具体的事実に適用する能力、および個別的事実から普遍的な法規範を帰納する能力である。この能力の涵養を、法規範の理論的体系的理解力と事実の法的評価力を養う法律専門科目と社会関係のグローバル化により変動する事実をより広い視野から捉える力を養う語学・教養科目、の二つの科目群を両輪として展開することにより実現する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.waseda.jp/folaw/law/about/policy/ ）
カリキュラム・ポリシーにより編成されたカリキュラムに従い、4年以上の在学期間中に厳格な成績評価の下、法律専門科目、一般教養科目および外国語科目のそれぞれについて所定の単位数を修得した者に法学士の学位が与えられる。但し、特に優れた学業成績を得た者については、一定の条件で3年の在学期間で卒業単位を修得することができる、いわゆる3年卒業を例外的に認める。なお、法学部には法律専門科目以外に一般教養科目および外国語科目を体系的に履修するために副専攻制度があり、その履修者には卒業時に学位記とともに副専攻修了証を授与することになっている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.waseda.jp/folaw/law/about/policy/ ）
法学部では、学生の多様な関心や将来の進路に対応できるように授業科目を多数開講し、法律専門科目、一般教養科目および外国語科目の全てをバランスよく学生自身が一定の枠組みの下で自由に選択履修できるカリキュラムを提供している。 そもそも私たちは、法学部である以上、単に教養だけ身につけた人材を社会に送り出すことは考えていない。法学専門教育を徹底し、まずは将来いかなる分野に進んでも必要となる基本科目の履修を求め、次いで学年が上がるにつれてより高度な内容の応用・発展科目を学ぶ、段階的な専門教育を実施する。こうした専門教育の段階化により、法律に関して基本科目の十分な理解を基礎に、例えば、法曹志望の学生には応用学習の機会が、また、企業人あるいは公務員として国内外で活躍することを希望する学生にはそれぞれの分野の発展科目の学習の機会が与えられ、各人のニーズに応じた専門知識とその運用能力の習得が国内法はもちろん、外国法や国際法に至るまで可能となる。 他方、私たちは、法学部であるが、法律の専門知識しか持たない人材を世に送り出そうとしているわけではない。ますます複雑化する今日、法が機能する社会それ自体に対して強い関心を持ち、生起する種々の社会現象を批判的に分析する力がなければ、いかに法的思考力を高めようとも、それは空疎なものと言わざるを得ない。そこで、法哲学や法制史等の基礎法科目の充実はもとより、法学に密接に関連する政治学や経済学等の社会科学、更にそれ以外に人文科学や自然科学の諸科目についても、一般教養として幅広く学び、刻々と変化する社会に公正や公平の精神をもって向き合うことができるように学識を総合的に深める仕組みを同時に用意している。また、国際化の進展により、異文化理解の重要性はこれまでになく高まっており、そのための外国語教育の充実や留学の促進、更に視野をグローバルに切り開く地域研究の展開等、国際的に活躍できる人材の養成に特に意を配っている。 なお、法学部において授業は体系的な知識を身につけるために講義形式で行われるとともに、学んだ知識を具体的な問題に実践的にあてはめることができるように少人数

の演習形式でも実施する。法学部ではこの演習形式の授業を重視し、全ての学年で提供しており、演習においては異なる考えを持った参加者が具体的な課題をめぐって互いに議論することになるため、適切な指導の下、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上も期待される。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/folaw/law/about/policy/>)

法学部で養成する人物像

法学部では、早稲田大学建学の理念と法学部の教育理念に即して展開される高度な学部教育カリキュラムを履修することにより、進取の精神に富んだ、広い意味での法律家として国内外のさまざまな分野でリーダーとして活躍できる人物の養成を目指している。

法学部は、段階的な法学専門教育を徹底しており、基本から応用までの多彩な科目を含む体系的なカリキュラムを整え、深く幅広い専門知識の教授とその運用能力の涵養を行っている。その一方で、法学の専門教育のみならず、社会科学、人文科学や自然科学の科目のほか、法学と融合した学際的な科目など、多種多様な科目を設置しており、高いレベルで行われている外国語教育と合わせて、充実した語学・教養教育を展開している。加えて、学んだ知識を具体的な問題に実践的に応用できるように、少人数の演習教育も重視している。

法律専門科目と語学・教養科目をバランスよく学ぶことによって、公平や公正という鋭い感覚を磨き、法曹はもとより、国家・地方公務員、民間企業や国内・国際機関の職員、法学研究者といった多様な進路、あらゆる場面においても、深い洞察力と的確な法的判断力をもって活躍できる市民を育成する。

入学者に求める素養

このような学部教育に対応できるよう、本学部の志望者には、高等学校までの基礎的な学力を身につけているほか、地域社会から日本社会、さらには国際社会までの多様な問題に関心をもち、自らの頭で考えようとする力を求めている。受験技術や知識よりも、①自ら必要な情報を収集し、②自分なりの視点や意見を形成し、③それらを論理的に整理・分析し、④説得的に表現する力、さらに⑤異なる意見や相反する意見にも耳を傾け、自分の見解を見直し、修正する姿勢を重視する。また、⑥法律学を志す者として、いかなる権威をも恐れぬ強い意志をもって、真理を追究しようとする心構えも肝要だと考える。

いわゆる文系科目に関心をもち重点的に学習した者だけでなく、文系・理系の枠組みにとらわれず、幅広い興味関心をもって、学部入学後に始まる法学領域の専門的知見の習得、およびその基礎になる教養の習得に真摯に励む、意欲に満ちた学生を求めている。

【外国語】

現在の日本法は西洋法を継受したものであることから、法学部では、英語はもとより、ドイツ語やフランス語など複数の言語の習得を必須としている。また、社会のグローバル化が加速し、地域的な問題であっても国際的な文脈と連動することが多い昨今、法律学においても、これまで以上に外国語の運用能力が求められている。高等学校での学習内容をしっかりと身につけるだけでなく、一つの言語であっても、外国語やその背景にある諸文化に関心をもち、国際的な視野に立って物事を考え学習を進

めることが望まれる。

【国語】

法律の解釈や運用には、高度な読解力と論述力、さらにプレゼンテーション能力が必要であり、法学部生にはこれらの鍛錬が不可欠となる。高等学校での国語の学習において、高度な日本語能力を身につけるだけでなく、日頃から新聞の論説や評論などの文章に慣れ親しみ、批判的、創造的な思考力を高め、自分の見解を論理的に表現するような自主的な学びが大切である。また、明治期の判例や文献、科目によっては古書資料を読解するために、古文・漢文の基礎的な素養も求められる。

【日本史】 【世界史】 【政治・経済】

法律学は社会科学の一分野であり、法律そのものが歴史的な産物であることから、法律学と周辺諸科学を理解するためには歴史的、社会的な考察は欠かせません。法律学は高等学校の科目としては存在しないが、日本史、世界史、政治・経済の学習内容と密接に関連している。これらの科目についての基礎的な知識と理解は、法学部での学習にきわめて有益であり、日頃から歴史や社会、経済の諸問題について幅広く関心を持ち、関連する書物を読むなど、自主的に知見を深める学習に取り組むことが大切である。

入試形態

法学部では、高度な法学専門教育および語学・教養教育に対応し得る基礎的な学力を備えていると同時に、広い視野と関心をもって主体的に学習をしてきた者、さまざまな分野で活躍するために必要な責任感や協調性、リーダーシップなど、筆記試験だけでははかることのできない能力を有する者など、全国各地から、あるいは世界から、多彩な学生を積極的に受け入れたいと考えている。このため、本学部独自の筆記試験を課す一般選抜のほか、多様な入試形態によって入学者を選抜している。

【一般選抜】

法学部教育との接続を踏まえ、高等学校における基礎的な知識を問うとともに、これまでの主体的な学習や深く学ぼうとする意欲から身につく力を確かめ、法学部が求める素養と能力をはかる試験である。

「英語」では、基本的な語彙や文法の知識を確認するとともに、長文を的確かつ柔軟に読解する力を重視し、英作文では、想像力を駆使して自分なりに構成し、きちんとした論理に裏付けられた表現力を問う。

「国語」では、古文・漢文の基本的な語彙や文法を理解し、作品に対する読解力を問うとともに、現代文においては、記述式の解答も求め、長文の論旨を的確に読み取り、それを整理する論述力および論理的思考力を評価する。

「日本史」、「世界史」、「政治・経済」では、基礎的な知識を問うとともに、それらを総合的に活かす応用力や分析力を重視し、記述式の解答も求めて評価する。また、選択科目の一つとして、大学入学共通テストの「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」を採用し、数学的論理的思考力をもつ受験生の選考も行っている。

【大学入学共通テスト利用入試】

いわゆる文系・理系を問わず、幅広い学習における基礎的な知識を問い、広い視野をもつ受験生や地方からの受験生を全国各地から積極的に受け入れたいと考え、大学入試センターが実施する試験を利用する。大学入学共通テスト（5教科6科目）の合計点をもとに評価する。

【指定校推薦入試】

高い学力をもつだけでなく、高等学校での学習や課外活動を通じて、取り組むべき問題を主体的に発見したり、討議の中で解決策を導く協調性やコミュニケーション能力を備えた者を本入試により受け入れます。各都道府県において指定された高等学校からの推薦書および出願書類をもとに面接試験を実施し、法学部で学ぼうとする高い意欲や明確な志向を中心に評価する。

また、2021年度入試より大学入学共通テストの指定科目の受験を必須とし、本学部の教育に対応し得る水準の知識・技能を有しているかの確認を行っている。

【新思考入試（地域連携型）】

高等学校での学習や地域での経験を踏まえて培われた「地域へ貢献」する意識をもつ者を重視し、書類選考・総合試験（筆記）および大学入学共通テストの指定科目の成績によって選考する。出身高校所在地や居住地は問わず、入学後は法学部の学びに加え「地域への貢献」をテーマとした全学共通の活動を行うことを推奨し、それらの活動は大学が全面的にバックアップする。

【帰国生入試】 【外国学生入試】 【中国指定校推薦入試】

早稲田大学法学部で学ぼうとする高い意欲と学びに必要な基礎学力を有し、豊かな国際性と積極性を備えた者を受け入れる。

【附属高校推薦制度】 【系属高校推薦制度】

受験勉強の枠にとらわれない環境を活かし、既存の考え方や「常識」を疑い、自由な発想と独自の視点で物事を洞察する力を持ち、大学の活性化に寄与するような、活力にあふれた者を受け入れる。附属高校、系属高校からの推薦をもとに、法学部で学ぶ高い意欲と学ぶにふさわしい学力を評価する。

学部等名 文化構想学部：文化構想学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.waseda.jp/flas/cms/about/policy/ ）
文化構想学部は人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材、柔軟で豊かな発想力を使って、新しい文化の世界をダイナミックに構想できる人材を育成する。 また、文化の様相と構造を解明し、表象の分析と文芸の創造に取り組み、人間と社会の本質に迫ることによって、新しい時代にふさわしい文化を構想すること、文化学の叡智を現代の課題で照らし、これまでの学問領域を大胆に乗り越えて、広領域的・学融合的アプローチを実践することを目標とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.waseda.jp/flas/cms/about/policy/ ）
早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。
学部の理念・目標
● 文化の様相と構造を解明し、表象の分析と文芸の創造に取り組み、人間と社会の本質に迫ることによって、新しい時代にふさわしい文化を構想する。 ● 文化学の叡智を現代の課題で照らし、これまでの学問領域を大胆に乗り越えて、広領域的・学融合的アプローチを実践する。
人材養成の方針

- 人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成する。
- 柔軟で豊かな発想力を使って、新しい文化の世界をダイナミックに構想できる人材を育成する。

具体的な到達目標

- 「必修基礎演習」を通じて、専門学習に取り組むための基礎となるアカデミック・リテラシーを身につける。
 - 「必修英語」・「基礎外国語」などの履修を通じて、専門課程で十分に活用でき、また様々な場面における幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につける。
 - 各論系に設置される「専門演習」の履修を通じて、文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養う。
 - 「講義」・「選択英語」・「選択外国語」などを、論系の枠にとらわれずに自由に組み合わせて履修することを通じて、ダイナミックな学問の広がりを経験し、基礎教養を深めるとともに、自らの研究テーマを構想するための広やかな視野を得る。
 - 「論系ゼミ」または「卒業研究」のいずれかを選択し、学生相互の討論や教員による指導を通じて自らの研究テーマを確立し、学修の集大成として、一定の学問的水準と独創性を備えた「ゼミ論文」または「卒業研究」を作成・提出する。
- 以上を含め、卒業要件である 124 単位以上を修得した者に、「学士」（文学）を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/flas/cms/about/policy/>）

- 1 年次は、進級後の専門学習に必要となる基礎的能力を身につけるために、アカデミック・リテラシーの養成を目的とする「必修基礎演習」、および「必修英語」・「基礎外国語」などの語学を中心に学習する。
- 2 年次からは、所定要件を満たすことにより 6 つの論系に進級し、所属論系の「専門演習」において、個別のトピックに基づく調査や討論、文献講読などを行う。また、文学部との共通科目群（ブリッジ科目）から、教養・専門を幅広くカバーし、古典から先端・新領域まで学ぶことができる「講義」、外国語能力にさらに磨きをかける「選択英語」・「選択外国語」などを選択履修する。
- 3・4 年次は、少人数制で 2 年間に亘る論系ゼミ、もしくは指導教員による個別指導に基づく卒業研究のいずれかを選択する。前者においては、学生同士が互いに刺激し合い切磋琢磨する環境を通じて、後者においては、個々に設定した研究テーマに基づく創造的な取り組みを通じて、「ゼミ論文」または「卒業研究」を完成させる。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/flas/cms/about/policy/>）

早稲田大学では、「学問の独立」の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れる。文化構想学部が特に入学者に求める資質・能力は、次のとおりである。

- 「文化の様相と構造を解明し、表象の分析と文芸の創造に取り組み、人間と社会の本質に迫ることによって、新しい時代にふさわしい文化を構想する」「文化学の叡智を現代の課題で照らし、これまでの学問領域を大胆に乗り越えて、広領域的・学融合的アプローチを実践する」という学部の理念・目標を理解し、学位取得に積極的に取り組む意欲がある。

文化構想学部の基礎から専門に亘るカリキュラムを理解して、入学後の修学に必要な基礎学力を有する。また入学以前に幅広い学習と経験を積んでいる。

学部等名 文学部：文学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.waseda.jp/flas/hss/about/policy/>）

本学部は伝統的な学問分野を深く学ぶことによって、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質を理解できる人材、伝統の継承と発展に貢献するために、名声におごらず、権力におもねらず、互いに切磋琢磨して人間性を高め、久遠の理想を目指して努力する人材を育成する。

また、人間・世界を深く探り、言語・文学・表現の本質を解明し、人間・社会を歴史的に究明すること、豊かな学問的蓄積を受け止めて、新しい時代のなかで発展させるとともに、伝統的な学問体系をより洗練して確固たる学問として確立することを目標とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.waseda.jp/flas/hss/about/policy/>）

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

学部の理念・目標

- 人間・世界を深く探り、言語・文学・表現の本質を解明し、人間・社会を歴史的に究明する。
- 豊かな学問的蓄積を受け止めて、新しい時代のなかで発展させるとともに、伝統的な学問体系をより洗練して確固たる学問として確立する。

人材養成の方針

- 伝統的な学問分野を深く学ぶことによって、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質を理解できる人材を育成する。
- 伝統の継承と発展に貢献するために、名声におごらず、権力におもねらず、互いに切磋琢磨して人間性を高め、久遠の理想を目指して努力する人材を育成する。

具体的な到達目標

- 「必修基礎演習」を通じて、専門学習に取り組むための基礎となるアカデミック・リテラシーを身につける。
- 「必修英語」・「基礎外国語」などの履修を通じて、専門課程で十分に活用でき、また様々な場面における幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につける。
- 各コースに設置されたコース専門科目（「専門演習」・「専門講義」）の履修

を通じて、伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力を会得する。 ● 「講義」・「選択英語」・「選択外国語」などを、コースの枠を超えて履修することを通じて、ダイナミックな学問の広がりを経験し、基礎教養を深めるとともに、自らの研究テーマを構想するための広やかな視野を得る。 ● 「専門演習（卒論）」などを通じた指導教員の綿密な指導を受けつつ、自らの研究テーマを確立し、学修の集大成として、一定の学問的水準と独創性を備えた「卒業論文」を作成・提出する。 以上を含め、卒業要件である 124 単位以上を修得した者に、「学士」（文学）を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.waseda.jp/flas/hss/about/policy/）
● 1 年次は、進級後の専門学習に必要な基礎的能力を身につけるために、アカデミック・リテラシーの養成を目的とする「必修基礎演習」、および「必修英語」・「基礎外国語」などの語学を中心に学習する。 ● 2 年次からは、所定要件を満たすことにより 18 のコースに進級し、各コースの個性的な学術分野と専門性に沿って設置されたコース専門科目（「専門演習」・「専門講義」）において専門学習を進めるとともに、文化構想学部との共通科目群（ブリッジ科目）から、教養・専門を幅広くカバーし、古典から先端・新領域まで学ぶことができる「講義」、外国語能力にさらに磨きをかける「選択英語」・「選択外国語」などを選択履修する。 ● 3 年次の秋学期には、卒業論文指導教員が決定する。4 年次には、指導教員の担当する卒論演習に参加し、隣接する研究テーマに取り組む学生がお互いに切磋琢磨する環境の中で、卒業論文を完成させる。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.waseda.jp/flas/hss/about/policy/）
早稲田大学では、「学問の独立」の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富み、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れる。文学部が特に入学者に求める資質・能力は、次のとおりである。 ● 「人間・世界を深く探り、言語・文学・表現の本質を解明し、人間・社会を歴史的に究明する」「豊かな学問的蓄積を受け止めて、新しい時代のなかで発展させるとともに、伝統的な学問体系をより洗練して確固たる学問として確立する」という学部の理念・目標を理解し、学位取得に積極的に取り組む意欲がある。 文学部の基礎から専門に亘るカリキュラムを理解して、入学後の修学に必要な基礎学力を有する。また入学以前に幅広い学習と経験を積んでいる。
学部等名 教育学部：教育学科、国語国文学科、英語英文学科、社会科、理学科、数学科、複合文化学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.waseda.jp/fedu/edu/about/policy/）

当学部的主要な教育目的は二つある。一つは高等師範部以来、幾多の教育指導者を
斯界に輩出してきた伝統を継承して、優秀な教育者を送り出すことであり、一つは広
く実社会の各分野で活躍しうる有能な人材を養成することである。この二つの目的は
決して別のものではなく、いずれの途を進むにせよ、その根底は広い知識と豊かな教
養をもった幅広い人間の育成にある。当学部の教育理念もまたこの幅広い人間教育に
あることはいうまでもない。

<教育学科>

- 教育学の役割は、一方で教育の適切さに関する判断をより確実な知的基盤の上で
行うための知識や技能を提供することであり、他方諸科学との協働によって深い
人間理解や社会理解に貢献することでもある。その役割を担う教育学部内で、本
学科は基軸的役割を果たしており、将来新たな教育にかかわる知識や動向を理解
していく上での基礎となる学習を提供する。本学科は、教職課程を通して実践者
としての技術的側面と専門的側面における知識を身につけた教員を養成するほ
か、社会の様々な領域において教育に関連する多様な課題を適切に処理でき、ま
た対人関係においても深い人間理解を行うことができる能力を有する人材を育成
することを目的とする。

<国語国文学科>

- 本学科は、国語国文学の高い学識をそなえた、人間味豊かな中学校・高等学校の
国語科教員の養成ならびに社会の多方面において活躍できる人材の育成を目的と
しています。そのために、上代・中古・中世・近世・近代・現代にわたる日本語・
日本文学の専門科目や国語教育に関する多彩な科目、および中国古典文学（漢文
学）の基礎学力を身につけるための科目や日本語教育に関する基礎科目が手厚く
設置されています。1年次より日本文学・日本語学・中国文学の多様な専門科目
を履修することによって、より早い時点で高い専門性をめざすことができるよう
にカリキュラム面での配慮がなされています。
- 卒業生は、中学・高校の教員や図書館司書・博物館学芸員はもとより、新聞・放
送・出版などのマスコミ関係をはじめ、一般企業の多種多様な方面で幅広く活躍
しています。研究・専門職をめざして、早稲田大学大学院（教育学研究科・文学研
究科・日本語教育研究科等）へ進学する者も少なくありません。教育学研究科へ
の推薦入学制度も設けられています。

<英語英文学科>

- 本学科は発足時より教員免許取得を必須としない開放制教員養成制度の理念にも
とづき、英語教員養成のみならず、社会に有為な人材を送り出すべく幅広い専門
教育を実践してきました。卒業生は教育界をはじめ、商社、マスコミ、物流、金
融、官公庁など広い分野で活躍しています。本学科の学生は、1、2年次に文学・
文化系、言語学・応用言語学系の基礎知識を学び、3、4年次には各自の学問的興
味に合わせて上記の2系列4領域から演習と選択科目を履修して専門的知識と研
究能力を養い、最終的に演習担当教員の指導の下で卒論を執筆します。1年次よ
り段階的に英語を用いて学問を学ぶ訓練を積むことで、卒業時までには高度な英語
力と学識を身に付けることを目標としています。研究職や専修免許取得を目指す
学生には、大学院教育学研究科への進路も確立されています。

<社会科>

- 本学科は、地理歴史専修と公共市民学専修とから構成されています。各専修は、幅広いカリキュラムを設定することにより、<社会>の歴史的ならびに構造的な成り立ちと仕組みについて、多様な観点から学ぶことにより視野を広げること、専門領域についての体系的な知識を修得することにより思考力を高めること、そして社会全般において指導的な役割を担い活躍できる人材を育成することを目的としています。両専修の卒業生は、中学校、高等学校の教員や、官公庁職員、通信、金融、マスコミ、各種メーカーなどの企業人として活躍しています。また、専門職を目指しさらに高度な研究をおこなうために教育学研究科をはじめとした大学院に進学する学生もいます。

<理学科>

- 本学科は、生物学専修および地球科学専修から構成され、理学部の専門学科に相当する授業・教授陣・施設・機器をもって、現代の自然科学で求められる高水準の教育カリキュラムを提供しています。それぞれの専修で自然科学を学ぶ基礎をつくるために、物理学・化学・数学などを学びます。また本学・教育学部の豊富で多様な共通科目によって視野を広げ、さらに専門科目の履修によって高度な専門学識・技術を身につけて、社会の様々な場で活躍する人材を育成します。学部卒業時には学士（理学）の学位を取得し、引き続き大学院への進学者が多いことも理学科の特徴です。特に、両専修の教員が担当する大学院先進理工学研究科（生命理工学専攻）あるいは創造理工学研究科（地球・環境資源理工学専攻）へ進学すれば、修士課程や博士課程まで、一貫した教育研究システムの中で研鑽を重ねることができます。これらの大学院への進学には、一般入試のほか推薦入学制度も適用されます。

<数学科>

- 高等学校で習得した数学の基礎学力を背景に、現代数学の各分野にわたる科目の学習を行い、論理的思考を必要とする種々の領域で広く活躍できるような数学的素養を身につけた人の養成を目的としています。カリキュラムは、解析学・代数学・幾何学・情報数学・数学教育学の基幹的講義を中心に、それぞれの分野を体系的に学ぶことができるように組み立てられています。さらに、3～4年次の2年間にわたる少人数のセミナーにおいて、専門分野を深く学べるようになっています。
- 卒業生は、大学院進学のほか、情報・通信関連や銀行・保険関連を中心とした一般企業の会社員、また中学校・高等学校の教員として、広く社会に進出しています。成績優秀で一定条件を満たしている者には、早稲田大学大学院教育学研究科と同大学院基幹理工学研究科・創造理工学研究科・先進理工学研究科への推薦入学の道が開かれています。

<複合文化学科>

- 本学科では、人間にかかわる事象全般を広く<文化>と捉えたうえで、それを多角的・多面的に考察する力を育成することを大きな柱とし、あわせて、英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語から選択）を専門的に学ぶことにより文化や社会に対する複眼的な思考を培い、また情報通信ネッ

トワークの技術を習得することにより情報を収集・編集して発信する力を養います。

さらに、問題発見・解決型の教育価値の創造を目指しています。現代社会が抱える諸問題、現代文化が繰り広げる諸現象に対し、複合的な視野をもって果敢に挑戦していく人材の育成を目指しています。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.waseda.jp/fedu/edu/about/policy/>）

本学部は、研究と教育を結びつけて社会に貢献する優秀な教育者、および、広く実社会の各分野で活躍する有能な人間の育成を目標に掲げる学部である。その特徴は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の教員養成を主な目的のひとつとしつつも、教員免許の取得を卒業要件としない開放制教育学部ということである。そうした教育課程をとる理由は、第一に、最終的に教員の道を選んだとしても、初めから進路を固定しないことが、思索を深めるのに有意義であると考えからである。教員という専門職を選択肢のひとつとして考えることが、多様なものの考え方を身につけるのによい機会となる。第二に、たとえ教員にならなかったとしても、卒業後の社会において組織であれ家庭であれ、多くの場面で教育者としての資質を求められるからである。教員に教科の専門的な知識が求められるのは言うまでもないが、学問的に裏打ちされた知識を基盤に物事を判断する力はあらゆる職業の人々にも求められる。開放制教育学部という特徴を持つ本学部は、多様性が保証される社会の構築を追求する学部であるといえる。本学部では、そうした理念のもとに、早稲田大学が有している総合性・独創性のある全学的な教育環境と学生生活環境を生かし、体系的な教育課程を策定する。

本学部は文系・理系にわたる7学科2専攻7専修からなっている。そのため、各学科・専攻・専修の専門性にあわせて、以下の8種類の学位を取得できるようにしている。

1) 学士(教育学): 教育学科教育学専修・生涯教育学専修・初等教育学専攻

本学位は、教育に関する事象を論理的に理解する考察力を得た者に与えられる。

2) 学士(心理学): 教育学科教育心理学専修

本学位は、人間の心理・行動を多様な方法で理解する心理学的考察力を得た者に与えられる。

3) 学士(文学): 国語国文学科・英語英文学科

本学位は、人間社会の多様な文化を理解する言語・文学的考察力を得た者に与えられる。

4) 学士(地理学): 社会科地理歴史専修

本学位は、世界の多様な自然・文化を理解する地理学的考察力を得た者に与えられる。

5) 学士(歴史学): 社会科地理歴史専修

本学位は、世界の多様な社会・文化を理解する歴史学的考察力を得た者に与えられる。

6) 学士(公共市民学): 社会科公共市民学専修

本学位は、多様な立場の個人や集団の関係を理解する社会科学的考察力を得た者に与えられる。

7) 学士(理学): 理学科・数学科

本学位は、自然や数理の世界を理解する科学的・数学的考察力を得た者に与えられる。

8) 学士(学術): 複合文化学科

本学位は、人間社会の多様な文化を理解する多元的・多面的考察力を得た者に与えられる。

総じて、深い専門性、幅広い知識、豊かな教養、優れたコミュニケーション能力を身に付けた者に卒業を認める。

上記を踏まえ、教育学部では、卒業時に身に付けておくべき能力を以下のように定める。

学修成果 1 教育者(教員に限らず)としての資質を有し、学問的に裏打ちされた知識を基盤に物事を判断する力を有している。

学修成果 2 下表に定める分野において、基礎的な原理、法則、理論を理解し応用することができる。

学位: 学科、専攻、専修	定める専門性
学士(教育学): 教育学科教育学専修・生涯教育学専修・初等教育学専攻	教育に関する事象を論理的に理解する考察力
学士(心理学): 教育学科教育心理学専修	人間の心理・行動を多様な方法で理解する心理学的考察力
学士(文学): 国語国文学科・英語英文学科	人間社会の多様な文化を理解する言語・文学的考察力
学士(地理学): 社会科地理歴史専修	世界の多様な自然・文化を理解する地理学的考察力
学士(歴史学): 社会科地理歴史専修	世界の多様な社会・文化を理解する歴史学的考察力
学士(公共市民学): 社会科公共市民学専修	多様な立場の個人や集団の関係を理解する社会科学的考察力
学士(理学): 理学科・数学科	自然や数理の世界を理解する科学的・数学的考察力
学士(学術): 複合文化学科	人間社会の多様な文化を理解する多元的・多面的考察力

学修成果3 問題発見・解決力: 新たな問題を言語化またはモデル化し、解を提案、論理的に説明する力を身につけている。

学修成果4 健全な批判精神: 社会および自然界の事象を多面的に捉え、既存の問題設定や解を健全に批判し、建設的な提案を行う姿勢を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fedu/edu/about/policy/>)

本学部は、下表のとおり学科(学位)ごとに定める専門性を身に付けること、優秀な教育者の輩出、広く実社会の各分野で活躍しうる有能な人間の育成、それを支える深い専門性、幅広い知識、豊かな教養、優れたコミュニケーション能力を身に付けた人間の育成、を実現するため、以下の方針のもとに教育課程を編成する。

学位:学科、専攻、専修	定める専門性
学士(教育学):教育学科教育学専修・生涯教育学専修・初等教育学専攻	教育に関する事象を論理的に理解する考察力
学士(心理学):教育学科教育心理学専修	人間の心理・行動を多様な方法で理解する心理学的考察力
学士(文学):国語国文学科・英語英文学科	人間社会の多様な文化を理解する言語・文学的考察力
学士(地理学):社会科地理歴史専修	世界の多様な自然・文化を理解する地理学的考察力
学士(歴史学):社会科地理歴史専修	世界の多様な社会・文化を理解する歴史学的考察力
学士(公共市民学):社会科公共市民学専修	多様な立場の個人や集団の関係を理解する社会科学的考察力
学士(理学):理学科・数学科	自然や数理の世界を理解する科学的・数学的考察力
学士(学術):複合文化学科	人間社会の多様な文化を理解する多元的・多面的考察力

- 1) 1年次から各学科・専攻・専修に所属し、4年間の一貫した専門教育を行い、深い専門知識を身に付けた人間を育成する。
- 2) 教員志望の学生には、教職課程において1年次から充実した教職教育を行い、質の高い学校教員を育成する。
- 3) 学部共通科目、他学科・他専攻・他専修専門科目、他箇所設置科目等の履修により、専門分野にとどまらない幅広い知識と豊かな教養を身に付けた人間を育成する。
- 4) 充実した外国語教育や少人数演習科目の履修により、優れたコミュニケーション能力を身に付けた人間を育成する。

この方針のもと、本学部での教育課程は概ね次のようになっている。1・2年次には、(i)それぞれの専門領域を学ぶにあたって知っておくべき基本的な知識を修得する科目を履修する他、(ii)人文系・社会系・自然系・数理情報系・総合系・体育系の6領域からなる学部共通科目、および外国語科目を履修する。また、それぞれの専門教育科目の履修の他、関心に応じて他学科・他専攻・他専修の専門教育科目や、グローバルエデュケーションセンターをはじめとした教育学部以外の箇所設置科目を履修することも可能である。3年次には本格的な演習が始まり、4年次において、それまで専門領域で学んだ学識をもとにそれぞれが主体的に設定したテーマの研究に取り組む。こうして4年次の最後に卒業論文・卒業研究を完成させ、4年間の集大成とする。この間、教員を志望する者は教員免許取得のための教職課程科目を履修し、豊かな知識と教養を身に付けた教員を目指す。この他、学部・大学院の一貫教育として、教育学研究科・基幹理工学研究科・創造理工学研究科・先進理工学研究科の科目を一部先取り履修できる。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.waseda.jp/fedu/edu/about/policy/)
早稲田大学では、『学問の独立』の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れる。 教育学部の主要な教育目的は二つある。一つは高等師範部以来、幾多の教育指導者を斯界に輩出してきた 100 年の伝統を継承し、優秀な教育者を送り出すことであり、一つは広く実社会の各分野で活躍しうる有能な人間を育成することである。この二つの目的は決して別のものではなく、その根底は、深い専門性、幅広い知識、豊かな教養、優れたコミュニケーション能力を身に付けた人間を育成することにある。 これらの目的に照らし、教育学部の志望者には、①教科に関する確かな基礎学力に加え、②「教える・伝える力」の基盤となる高い論理的思考能力と言語運用能力、さらに③異質な他者との関係性のなかで自ら求めて学ぶ姿勢を備えていることが求められる。入学後は、教育者としての資質をもって、学校を含む社会の各分野で活躍しうる人間となるべく、本学部の教育課程を通じて、学問的に裏打ちされた知識を基盤に物事を多面的に捉え、的確に判断していく力を身につけることが目指される。 多様な学生に開かれた学部であるために、本学部では一般入試、指定校推薦入試、帰国生・外国学生入試、学士入試の各制度を設けている。 一般入試では、学科試験において①及び②を評価し、指定校推薦入試では出願書類を通じて①③を測るとともに面接試験において②③を評価している。帰国生・外国学生入試及び学士入学試験においては、出願書類、学科並びに小論文試験及び面接試験を通じて、①②③を総合的に評価している。

学部等名 商学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.waseda.jp/fcom/soc/about/policy/)
本学部は、1904 年の創設以来、「学識あるものは実業の修養に乏しく、実業の修養あるものの多くは学識を欠く」という認識を持ち、これら両面の修養を兼ね備えた「学識ある実業家」を育て、社会に送り出すことを教育理念としてきた。 現代においては、専門的知識に加えて、幅広い教養を身に付けることを通じて、倫理観や的確な分析力・行動力に基づく企(起)業家精神を養うとともに、「国際化」「情報化」「学際化」という要因を取り入れ、次代の産業界を支え、ビジネスを担う人材(ビジネスリーダー)の育成を目指している。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.waseda.jp/fcom/soc/about/policy/)
本学部は、1904 年の創設以来、「学識あるものは実業の修養に乏しく、実業の修養あるものの多くは学識を欠く」という認識を持ち、これら両面の修養を兼ね備えた「学識ある実業家」を育て、社会に送り出すことを教育理念としてきた。 商学は、ビジネスと経済の融合領域であり、ヒト・モノ・カネ・情報等の諸資源の配分に関する機能や制度を国内および国際的観点から考察し、理論的かつ実証的な研究を行う。すなわち、経済の基盤をなす産業の動向、企業行動やビジネス活動、消費者行動、種々の経済取引を理論・機能・制度に着目して研究し、もって経済社会を質・量ともに豊かにすることを基本に据えている。 現代においては、専門的知識に加えて、幅広い教養を身に付けることを通じて、倫理観や的確な分析力・行動力に基づく企(起)業家精神を養うとともに、「国際化」「情報化」「学際化」という要因を取り入れ、次代の産業界を支え、ビジネスを担う人材

(ビジネスリーダー)を育成している。本学部は、創設以来、10万人の人材を育成し、卒業生は内外の産業界のみならず、政治・文化など多方面で活躍している。これら社会を先導してきた人々の活躍を通じて、本学部の教育理念は一定の評価を得ているといえる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fcom/soc/about/policy/>)

「学識ある実業家」を育成するために、「経営」「会計」「マーケティング・国際ビジネス」「金融・保険」「経済」「産業」からなるトラック制を採用し、商学に関連する「総合・学際科目分野」(法律、学際、寄附講座等、統計・IT)、外国語で商学を学べる「外国語専門科目分野」を設置している。また、幅広い学識を身に付ける上で「思想と芸術」「人間と環境」「社会と歴史」「科学と技術」からなる総合教育科目、国際化や異文化理解に対応した外国語科目(英語・独語・仏語・西語・中国語・朝鮮語)を実施している。

初年次には、ビジネスの基盤である経済の全体像を学ぶ「基礎経済学」、ビジネスの言語である会計データを理解するための「基礎会計学」、論理的思考力を養うための「基礎数学」、さらにはビジネスを法律的な観点から学習する「ビジネス法入門」、分析力・解析力を強化するための「統計リテラシー $\alpha \cdot \beta$ 」を必修化するとともに、少人数の総合教育科目演習を設置し、基礎学力の増進に努める。

トラック制の下で専門教育科目や専門教育科目演習(ゼミ)を履修することを通じて専門知識を修得するとともに、問題発見、調査・分析、問題解決、文章表現の能力の向上を図りつつ、実務家による寄附講座を活用してビジネスの実践を学び、理論に偏らない幅広い知識の獲得を目指す。また、商学研究科および会計研究科設置科目の先取り履修制度を設け、高度な専門知識を学ぶ機会を提供する。さらには、学部と商学研究科のカリキュラムを連動させ、早期に修士号の取得が可能な一貫教育を展開する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fcom/soc/about/policy/>)

早稲田大学の建学の理念である『進取の精神』の涵養を目指す、一定の高い基礎学力を持ちながら、かつ知的好奇心が旺盛で、自分で計画を立て、種々の課題に積極的に立ち向かう意欲に満ちた個性的な学生を、全国各地や世界中から多数迎え入れる。

「学識ある実業家」の養成を創設以来の教育理念に掲げる本学部は、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等のビジネス・スキルを修得する場であるとともに、それ以上に広い視野に立って経済社会を質・量ともに豊かにすることを目指す「商学」の基本理念を理解し、自らの使命や役割を認識した上で判断・行動しようとする人々の学びの場である。そのために、論理的思考力や社会科学の基礎となる学力が必要不可欠である。国際感覚・倫理観を兼ね備えた企(起)業家精神を養い、深い学識と教養に裏付けられた実業家を目指し、ビジネスリーダーとして地球社会に貢献しようと志す学生を受け入れたいと考えている。

学部等名 基幹理工学部：数学科、応用数理学科、情報理工学科、機械科学・航空宇宙学科、電子物理システム学科、表現工学科、情報通信学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/fundamental/>)

早稲田大学理工学部は理と工の一体化による先端研究とそれに基づく教育を行うことにあった。基幹理工学部では、その定評ある伝統を継承し、数理科学等の「理」と基礎工学等の「工」の基礎をまずしっかり学ぶ。その上で、数学と応用数理、情報と通信の科学と技術、機械の科学と航空、電子と光の科学と技術、アートと科学の融合等の専門分野の教育を行う。ここでは、充実した講義・演習・実験等により専門に精通させていくとともに、先端研究を行う教員や研究員がプロジェクト研究等へ学生を誘い、「研究の楽しさに触れて学ぶ」伝統を実践する。一年次を学部一括教育の期間とし、学部共通基礎を深く学ぶと同時に、各専門分野に一年間触れて将来の進路を見極める時間が用意されていることが特徴である。数理科学や工学の基礎と専門科目をとものにしっかり学ばせることにより、新しい時代を切り開く自在の能力を持つ学生の育成を目的とする。また、人文・社会的な素養も併せ持たせて、持続可能な社会構築など科学者として人類に貢献する視点の形成も行う。

- **数学科**

数学は人類の歴史と共に歩んできた学問であり、他に類をみないユニバーサリティと信頼性、加えて幅広い適用性を持っている。また数学はそれ自身魅力ある研究分野であると同時にあらゆる科学研究の理論的基礎となり、技術を支えている。そして、物理学をはじめとする自然科学、コンピュータから社会科学に至る人間の文化全般と関わり続け、発展している。数学科では代数、幾何、解析、応用数学の4分野を教育の柱として、単に技術の修得にとどまらず、物事の根源的な構造を見抜き、解析を行う数理的思考力を持つ学生を育てることを教育の目標としている。

- **応用数理学科**

ますます複雑化する科学技術及び現代社会において様々な課題を解決するために、幅広い教養と数理的洞察力を備えた人材が求められている。応用数理学科では、数学と工学の双方に跨り基礎と応用の融合を理念とした教育を目指す。そのため、数学科との連携による数学的基礎教育に基づいて、統計数理、情報数理、現象数理の3つを柱とし各専門分野間の連携を重視した幅広い研究教育を行う。物理現象や社会的現象を数学的に捉え分析する力、現象を正確に計算し的確に予測する力、様々な現象から新しい数理分野を開拓する力を滋養し、新しい時代を切り開く人材の育成を目指している。

- **情報理工学科**

本学科では、情報や計算の理論的基礎及びコンピュータ上での処理を扱う情報科学と、コンピュータ・ネットワークシステムの工学的利用を扱う情報工学を融合した学問領域を扱う。これら情報科学、及び情報工学は、情報の処理と応用をもって、自然現象や技術活動および社会活動を分析し、新たな仕組みや価値を創造して人々の生活や世界に変化をもたらす学際的学問である。このような学問分野の教育・研究を通し、情報理工学科では基礎的な専門知識を修得した上で高度な専門知識を有する。世界の科学技術の発展に貢献できる学生を社会に輩出することを目指している。

- **機械科学・航空宇宙学科**

地球環境、エネルギー問題を抱える現代社会においては、環境、エネルギー、情

報、生命及び安全に関わる理工学の幅広い知識を体系的に理解し、その積極的な活用によって科学技術のより一層の洗練化と技術革新が希求されている。本学科では、自然科学と工学を融合した機械科学の基礎的な知識を幅広く修得し、それを積極的に活用することによって問題の発見とそれに対する解決能力を身につけることを教育の目標とする。その上で、機械科学の諸分野と航空宇宙工学に代表される総合的な理工学分野において、基礎及び応用最先端の研究や技術開発へ挑戦することによって、新たな科学的な価値の創造と技術革新に寄与できる技術者及び国際的に活躍できる真の人材を育成し、社会に貢献することを目的とする。

- **電子物理システム学科**

電子工学と物理学を基礎として、電子や光のテクノロジーとそのシステム化に必要な学問を体系的に学習する。量子力学、固体物性などの基礎物性領域、電子デバイス、電子回路などの電子工学領域、電磁気学、フォトンクス、光通信などの光電波領域、回路理論、集積回路等のシステム領域が対象となる。材料物性、半導体工学、光エレクトロニクス、情報工学、ナノテクノロジー、バイオテクノロジーとの間で連携し、システム化することで、次世代の豊かな暮らしを支え、高度情報化社会の実現に不可欠な研究の基礎力および技術開発力を身につけた人材を育成する。

- **表現工学科**

近年のメディア技術の発達により新たな文化・産業の創出が期待されているが、一方でそれに伴う諸問題、例えばコンテンツの質的・量的不足や生体への不適合などが顕在化している。それらの問題を解決し次世代のメディアを活用したライフスタイルや社会システムを展望するためには、科学技術を介した生体の諸特性、感性やコミュニケーションの理解や表象と同時に、それらを支える科学技術のあり方への取り組みが必要である。表現工学科では、このような認識に基づき、科学技術と芸術表現の融合による新たな社会ニーズへの対応と価値の創造へ挑戦していくことのできる人材の養成、学問領域の確立を目的としている。

- **情報通信学科**

本学科では、ネットワーク技術とコンピュータ技術の融合技術領域である情報通信 (ICT、Information and Communications Technology) の学問領域を扱う。基礎的な情報通信に関する専門知識を修得し、且つ、時代に即した高度な専門知識を有する情報通信の専門家を社会に輩出することを目的としている。グローバル競争社会の中で本質を見極めることができる情報通信分野のグローバル人材の育成を、情報システム、通信ネットワーク、メディア・コンテンツの情報通信の 3 分野でカバーするカリキュラムによって実現する。以上をもって、情報通信関連の人材需要に即した人材教育と育成を行う。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/fundamental/>)

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

さらに現代社会においては、科学技術に関する広い知識と、人文・社会科学系の知識を含む幅広い教養を備え、将来への洞察力を持って時代を切り拓く人材の育成が求め

られている。また新しい時代の科学技術を確立するとともに、学問の枠組み・意味さらには学問とその活用の関係を再構築することが時代の大きな要請となっている。基幹理工学部では社会を支えるキー・テクノロジーである情報、機械、エレクトロニクス、物質・材料、エネルギーに関する基礎的科学技術とその根幹にある数学、および両者の架け橋となる応用数理を軸とする教育研究を展開する。そして、幅広い教養の上に理工学の基礎を修得し、これをもとに各専門分野や新しい学問領域に取り組む能力を涵養し、時代を切り拓き世界で活躍できる人材の育成を目指す。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/fundamental/>)

基幹理工学部では、所属する7学科を数学系、工学系、メディア系に分類した学系別入試を採用している。1年次の学生は学科に属さず、週1コマの学系別授業を除けば学部共通のカリキュラムにより、理工系の幅広い基礎をしっかりと修得するとともに、将来どのような分野に進むべきかについて時間をかけて考えることができる。1年次のカリキュラムは複合領域科目、外国語科目(A群科目)、数学、自然科学、実験・実習・制作、情報関連科目(B群科目)および学系別のC群専門科目により構成される。一定の条件を満たした1年次の学生は、2年次から数学科、応用数理学科、情報理工学科、情報通信学科、機械科学・航空宇宙学科、電子物理システム学科、表現工学学科のうちの1学科に進級する。進級の際には、進級希望学科に応ずる振り分けが実施され、進級先の学科が決定される。2年次カリキュラムにおいては各学科必修科目の比率が高くなり、専門科目の履修が本格的に始まる。3、4年次では、受身的な学習から一転して能動的な学習が中心となる。各学科ともに基本と応用を学びながら課題に取り組み、問題解決の能力を身に付けることができるカリキュラム体系となっている。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/fundamental/>)

近年、科学技術の領域は飛躍的に大きな広がりを呈し、それに対応してそれぞれの領域は分化・深化してきた。大学における教育研究体制もこれに呼応した形で発展してきた。しかしながら、専門分野の発展と同時に、新しい価値観の創造、新しい科学技術分野あるいは学問分野の開拓が強く求められる時代を迎えた。これに伴い、地球規模で考え行動し、新しい時代を切り拓く人材を育成する教育研究の展開が求められることとなった。

基幹理工学部は、科学技術の根幹をなす数学をはじめとする理工系の素養と共に人文・社会学系の素養を身に付け、その上で科学技術の基幹を担う数学・応用数理、機械科学、航空宇宙工学、材料科学、電子物理システム学、情報理工学、情報通信学、表現工学などの基本を学習し、新しい分野に創造的に取り組む意欲と能力を備えた人材を求める。高等学校等における学習によって、確かな基礎学力(知識・技能・思考力・判断力・表現力)、および主体的に学ぶ姿勢を身につけた者を受け入れることを基本方針とする。

入学者選抜の方法

上記の方針に基づき、以下の入試による選抜を行う。

- 一般選抜では、数学、理科、外国語において高い学力を有していることを重視する。科目・設問により選択型と記述型の解答方式を用いて、多角的に学力を評価する。創造理工学部建築学科では空間表現(デッサン)の力も評価する。「主体性」「多様性」「協働性」については合否判定における評価基準とはしないが、出願時における記述を通じて確認する。

- 指定校推薦入試では、高等学校等での教育内容を堅実に習得した勉学意欲の高い者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書等）、面接審査を基に総合的に評価する。また、基幹理工学部では指定校推薦制度を活用した「北九州地域連携型推薦入試」を実施し、地方貢献の意識の高い人材を受け入れる。
- 附属高校・系属高校推薦入試では、基礎学力に加え幅広い知識と豊かな教養を持ち、リーダーシップを発揮できる者を受け入れる。高校調査書等を基に総合的に評価する。
- 帰国生・外国学生入学試験では、日本国外での教育・文化的な経験を持ち、かつ確かな基礎学力を備えた者を受け入れる。数学・理科の筆記試験、英語外部検定試験および面接審査等により総合的に評価する。
- 英語学位プログラム特別入試では、日本の教育制度において確かな基礎学力を身に付け、大学での英語による専門分野の学習に強い意欲を持った者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書、英語外部検定試験等）、筆記試験、面接審査を総合的に評価する。
- 英語学位プログラム A0 入試では、日本国外の教育制度において確かな基礎学力を身に付け、大学での英語による専門分野の学習に強い意欲を持った者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書、英語外部検定試験等）、面接審査を総合的に評価する。

学部等名 創造理工学部：建築学科、総合機械工学科、経営システム工学科、社会環境工学科、環境資源工学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/creative/>）

創造理工学部は、人間、生活、環境の 3 つのキーワードに基づき、科学技術の観点から人間生活と環境分野で発生している様々な問題を解決し、多様な価値観に基づく新しい豊かさを創造できる人材の養成を目的としている。この豊かさの創造のために、人間活動を支援し、地球環境に調和する空間・装置・コミュニティを創出する技術および環境システム技術に関する実践的教育と研究を展開していくことが、当学部が掲げる教育研究上の理念である。

● 建築学科

本学科は、自然環境や歴史・風土と共生する豊かな生活環境を社会に提供していく立場から、地域固有の多様な伝統と文化に根ざした広義の「建築デザイン」を実践する技術者を育成し、世界に誇れる建築文化を確立することをめざしている。

「建築デザイン」とは芸術と工学を融合した総合的なデザインを意味する。そこには、地域を構成する「人」「建築」「都市」「自然」が有機的に関連しあいながら、年月とともに調和のとれた生活環境を形成していくための、意匠設計、修復・保存再生、まちづくり等の安全性と持続可能性を担保した多様な活動が含まれる。

● 総合機械工学科

本学科は、次世代社会に向けて「もの」中心の伝統的な機械工学の枠組みを超え、「もの・ひと・こと」を基盤とした新しい技術を総合的にデザインできる創造的な開発エンジニアや研究者の養成を行う。そのために、科学的な知と実践的な知を統合したプロジェクト型の教育・研究を導入する。これにより、価値観が異なる多様な人々に則して、現代社会が抱える諸問題を解決していくことが可能な我

が国独自の「ものづくり」文化の実現を目指す。そこには、環境・エネルギー、医療福祉・高齢者介助、安心・安全、コミュニティ創生、ICT、モビリティ、宇宙、ロボットなど、多岐にわたる分野、先端技術が含まれる。

- **経営システム工学科**

本学科は、これからの社会に不可欠な経営システムの設計・構築・運用・管理・活用を行うことができる人材の養成を目的としている。そのために必要な基礎・応用技術の習得、机上で得た知識を応用できる能力の育成、より専門的な知識の習得、問題を発見し分析・考察を行い、それを解決・統合する能力の育成、実践的能力の習得、国際社会で通用する能力の習得を学習・教育目標としている。

- **社会環境工学科**

社会環境工学は、地球的視点から、自然環境の保全、生活環境の向上、人間社会の安全等を工学的に取り扱う学問である。本学科は、人間が安全で文化的な生活を送るために必要な社会基盤を整備し、自然と協調・共生した生活を、技術者倫理に基づいて提案・実現することができる人材の養成を目的とする。そのため、倫理観に裏付けられたゆたかな人格形成、数学・自然科学・情報技術を基礎とした教養と応用力の獲得、社会環境工学の専門知識を基礎とした問題の分析・洞察・解決力、自然や社会の環境変化に自立 的に対応する能力と想像力、日本のみならず国際社会での指導力と倫理観にもとづく行動力を育成することを教育の理念とする。

- **環境資源工学科**

人類の活動範囲の拡大に伴って、エネルギー資源や金属資源の枯渇、有害物質による汚染、地球温暖化、森林破壊、オゾン層破壊など多くの問題が引き起こされている。本学科の学生に対しては、これらの地球環境問題について、まず基礎となる数学・物理・化学・地球科学などの基礎科学に対する深い理解を求める。さらに、新しい金属資源や石油資源の開発、材料の開発、資源リサイクル、環境計測と環境浄化などの研究を通じて、将来にわたって環境問題を考慮した、人類の持続的発展に寄与できる人材を養成する。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/creative/>)

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

いま世界では、人口、食料や環境、防災、資源・エネルギーなど広範かつ緊急な問題が浮上している。これらを乗り越えるには、政策、社会システム、科学技術などに基づく幅広い対策が必要になってきている。

「創造」という語には夢とロマンがある。創造理工学部が目指す「創造」とは、社会が直面するさまざまな課題に科学技術の観点から具体的な解決策を提案することである。

このために、人間、生活、環境の 3 つのキーワードに基づき、科学技術の観点から人間生活と環境分野で発生している数々の問題を解決し、多様な価値観に基づく新しい豊かさを創造できる人材を養成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法： https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/creative/)
地球的視点、技術者倫理、コミュニケーション能力などの習得を教育の基本とし、社会のリーダーとなり、また国際性の高い人材の養成を目的として、応用に配慮した体験的学習を積極的に取り入れ、産業界とも連携しながら、教育課程を編成、実施する。 具体的には、学部入学時から大学院進学を視野に入れたカリキュラム体系となっており、学部1年生に専門必修科目として「創造理工リテラシー」を設置し、技術者倫理、リスクコミュニケーション、知的財産の基礎となる考え方を学ぶ。また、技術者・研究者として重要な「創造力」「発想力」「分析力」「展開力」を習得できるように、実践的な課題に取り組むプロジェクト・ベースド・ラーニング等による演習、実験、インターンシップ、共同研究による双方向教育課程を設置、実施している。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/creative/)
創造理工学部は、人間、生活、環境の3つのキーワードに基づき、科学技術の観点から人間生活と環境分野で発生している様々な問題を解決し、多様な価値観に基づく新しい豊かさを創造できる人材の養成を目的としている。この豊かさを創造のために、人間活動を支援し、地球環境に調和する空間・装置・コミュニティを創出する技術および環境システム技術に関する実践的教育と研究を展開していくことが、当学部が掲げる教育研究上の理念である。このような理念のもとで、ともに学び、ともに新たな豊かさを創造しようという意欲に満ちた個性的な学生を、日本国内はもとより世界から幅広く求める。高等学校等における学習によって、高い基礎学力（知識・技能・思考力・判断力・表現力）を身に付け、勉学意欲が強く、自ら主体的に考え、行動しようとする意識が高い者を受け入れることを基本方針とする。 入学者選抜の方法 上記の方針に基づき、以下の入試による選抜を行う。 ● 一般選抜では、数学、理科、外国語において高い学力を有していることを重視する。科目・設問により選択型と記述型の解答方式を用いて、多角的に学力を評価する。創造理工学部建築学科では空間表現（デッサン）の力も評価する。「主体性」「多様性」「協働性」については合否判定における評価基準とはしないが、出願時における記述を通じて確認する。 ● 指定校推薦入試では、高等学校等での教育内容を堅実に習得した勉学意欲の高い者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書等）、面接審査を基に総合的に評価する。また、基幹理工学部では指定校推薦制度を活用した「北九州地域連携型推薦入試」を実施し、地方貢献の意識の高い人材を受け入れる。 ● 附属高校・系属高校推薦入試では、基礎学力に加え幅広い知識と豊かな教養を持ち、リーダーシップを発揮できる者を受け入れる。高校調査書等を基に総合的に評価する。 ● 早稲田建築A0入試（創成入試）【創造・建築学科】では、創造性豊かで指導力に富み、率先してチームをまとめ上げるコミュニケーション能力に優れた活発な者を受け入れる。書類審査（自己報告書、活動実績報告書、高校調査書等）、面接審査（プレゼンテーション等）を総合的に評価する。 ● 帰国生・外国学生入学試験では、日本国外での教育・文化的な経験を持ち、かつ確かな基礎学力を備えた者を受け入れる。数学・理科の筆記試験、英語外部検定試

験および面接審査等により総合的に評価する。

- 英語学位プログラム特別入試では、日本の教育制度において確かな基礎学力を身に着け、大学での英語による専門分野の学習に強い意欲を持った者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書、英語外部検定試験等）、筆記試験、面接審査を総合的に評価する。
- 英語学位プログラム A0 入試では、日本国外の教育制度において確かな基礎学力を身に着け、大学での英語による専門分野の学習に強い意欲を持った者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書、英語外部検定試験等）、面接審査を総合的に評価する。

学部等名 先進理工学部：物理学科、応用物理学科、化学・生命化学科、応用化学科、生命医科学科、電気・情報生命工学科

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/>）

先進理工学部は、伝統・定評ある本学理工系教育を継承しつつ、新しい時代に即した効果的な教育研究を推進する基礎と応用の融合を体系的に構築することを目指している。本学部の理念は、自然科学（物理学・化学・生命科学）を基礎とし、先端科学技術の向上および学際的新領域の創成を目指した広範な理工学分野への展開にあり、新たな学問領域を開拓する進取の精神のもと、常に世界最高水準の教育研究拠点として本学理工系の教育研究を先導することを目的としている。

● 物理学科

本学科では素粒子・宇宙物理、物性（凝縮系）物理、生物物理を教育研究活動の3本の柱として、新しい未開拓の分野に挑戦し続けている。特に、主要な柱の一つに据えられた生物物理分野では物理学の視点から生命現象の理解に挑戦している。学部教育では自然科学の基礎を学んだ後、物理学の専門基礎を体系的に学習し、新たな学問領域を開拓する進取の精神のもと、現在活発に発展しつつある最先端の分野への挑戦を卒業研究という形で体験する。これらを通して、物理的・論理的思考のできる人材の養成に努めるとともに、世界最高水準の教育研究拠点としての本学物理系の教育研究を先導することを目的としている。

● 応用物理学科

本学科では物理学や応用数学の基礎をしっかりと習得し、高学年では固体物理学、光エレクトロニクス、システム・情報・制御工学など、現代のキーテクノロジーの基礎となる多くの科目を幅広く学習することができる。また卒業研究においては、各専門分野における世界最高水準の研究のプロセスを実際に体験し、応用物理学的手法を実経験として身につけていくことができる。これらを通して、卒業生が大学院や企業等で、最先端研究もしくは技術開発に即座に対応できるよう、グローバルな視野に立ち、既成概念にとらわれない自由な発想が出来る人材の育成を目指している。またその教育体制を充実させるべく、教員は常に世界トップレベルの研究開発を積極的に推進している。

● 化学・生命化学科

「化学」は物質の合成、物質の機能の実現、物質の機能の解析等を分子レベルで追及する基礎学問であり、数多くの化学製品を生み出し近代社会の発展に貢献してきた。本学科は、先進社会の発展を支える基礎学問としての「化学」を体系的に

教育するとともに、「化学」とのつながりを通して得られる関連研究分野の広範な科学的知識・経験を生かして新たな技術・分野を創造し、現代社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

- **応用化学科**

物理化学、無機化学、有機化学、化学工学を柱とする基礎を講義、演習、実験によって修得させるカリキュラムを根幹としている。これらを基礎として、セラミックス、プラスチック、エネルギー変換、食品、医薬、電子材料など、専門分野に関する知識はもちろん、原子・分子の世界からナノ・バイオ・生命・地球環境にわたる幅広い学際領域に関連する知識を修得させる。これらの教育を通して、化学を主軸として社会に実践的に貢献できる人材の養成を行う。さらに、反応プロセスや製造プロセスを設計できる人材の社会的要請も高いことから、そうした人材の養成にも対応している。これらに加えて、科学技術者倫理やリスクマネジメントなど次世代を担う人材として身につけておくべき研究者、技術者としての素養を修得させ、科学・工学に対して十分なリテラシーを育成する。

- **生命医科学科**

本学科では、理工学や医学などの既存の学問の枠を超え、新たな視点で生命現象を探究すべく、専門領域の学問の創成と生命現象を操作する新技術の開発を目指す。このため、物理・化学・数学・生命科学の知識を十分に学んだ上で、理工学系、生命科学系、医学系の専門科目をバランスよく履修する。また、有機材料化学、分析化学、生化学、細胞培養、動物実験の基本実験操作を身に付け、これらを基盤として最新のバイオテクノロジーを習得する。これらカリキュラムを通じて論理的な思考能力を育み、新たな分野を創造するパイオニア精神あふれる人材を育成する。

- **電気・情報生命工学科**

ますます発展する情報化社会の中で、電気・電子・情報・通信の分野では様々な技術の創出が急速に進んでおり、生命系の知識を備えた電気系技術者に対する期待も非常に大きくなると予想される。一方、ゲノムやタンパク質、脳・神経機能の解明とその応用には、生命系の知識以外に情報処理やナノテクノロジーの素養も必要となってくる。本学科では、産業競争力の基盤の1つである電気電子情報通信系学問・技術領域を一層発展させると同時に、総合的、俯瞰的な展望から「生命」という新たな領域を融合させることによって新しい学問領域を創り、これらの分野で活躍する人材を育成することを目指す。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/>)

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。本学部においては、先端理工学領域および学際的な分野でリーダーシップをとって活躍できる、幅広い教養を身に付け、高い公共性、倫理観を持ち、国際化や科学技術の進展など時代の変化に対応して積極的に社会貢献できる人材を各学科の理念・教育方針に基づき育成していくことを目標としている。本学部の学生には先端的な科学技術領域で真に活躍できる人材となるべく、学部の段階において物理、化学、生命科学、電気工学などの学問領域の基礎を十分修得し、それを基に高学年（大学院）においては専門的知識を修得、他分野に視野を広めていくこ

とを求めている。各学科のこれまでの実績から、卒業生の7割もしくはそれ以上が本学を中心とした大学院修士課程に進学すると見込んでいるため、本学部のカリキュラムは大学院進学を想定した構成に主眼を置くが、進学の有無に関わらず、学部卒業段階で各学科の専門的内容の基礎および応用力を着実に修得させるよう構成されている。所属する学科が定めるカリキュラムの履修方法および進級・卒業の要件に基づいて、定められた期間内に所定の単位を修めた学生に対して卒業が認定され、学士（理学）または学士（工学）が授与される。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/>）

実績ある本学理工系カリキュラムを発展させ、基礎学力の修得とともに先進領域への展開を可能とする実践力の涵養を目的として、第一線級の若手研究者・技術者の育成のための教育課程を編成する。物理学・化学・生命科学・数学・情報学などの「共通基礎」を横軸に、縦軸として各学科の専門分野に応じた対象と方法論両面に関する「専門基礎」を厚く確実に修得させる。これらを基に、高学年次（主に卒業論文研究配属以降）には先端的な学際分野を学習できる機会を多く設けるようにする。また、講義科目に加え、演習・ゼミナール・実験などの科目を多く配し、学理の基礎と応用を実践的に修得させる。さらに習熟度を確認するためのチェックポイントの設定などにより、各学科のカリキュラムに応じてきめ細かく学習プログラムの進捗を自己認識させ、修学意欲を高めるようにする。本学部には、A群・B群（自然科学基礎科目および実験・実習・制作）・C群（専門教育科目）・D群（保健体育・自主挑戦科目）の4系列に大別される学科目を設置する。A群・B群及びD群は学部全体の共通科目からなり、C群は各学科の特色に応じた専門科目からなる。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/>）

先進理工学部は、伝統・定評ある本学理工系教育を継承しつつ、新しい時代に即した効果的な教育研究を推進する基礎と応用の融合を体系的に構築することを目指している。本学部の理念は、自然科学（物理学・化学・生命科学）を基礎とし、先端科学技術の向上および学際的新領域の創成を目指した広範な理工学分野への展開にあり、新たな学問領域を開拓する進取の精神のもと、常に世界最高水準の教育研究拠点として本学理工系の教育研究を先導することを目的としている。

自然科学を基礎とした先端科学技術の向上および学際的新領域の創成を目指し、21世紀の「知」「能」「技」を主導的に展開できる人材の育成を行うため、入学者選抜においては、高等学校等における学習によって、基礎学力（知識・技能・思考力・判断力・表現力および自ら学ぼうとする主体性）を十分に身につけ、論理的な思考によりその応用にも意欲的な学生を求めている。また、本学部では国際化を格段に進めており、入学者は異なる文化・教育体系で学んできた様々な学生との交流を可能とするような高い英語能力も身につけていることが望ましい。

入学者選抜の方法

上記の方針に基づき、以下の入試による選抜を行う。

- 一般選抜では、数学、理科、外国語において高い学力を有していることを重視する。科目・設問により選択型と記述型の解答方式を用いて、多角的に学力を評価する。創造理工学部建築学科では空間表現（デッサン）の力も評価する。「主体性」「多様性」「協働性」については合否判定における評価基準とはしないが、出願時における記述を通じて確認する。

- 指定校推薦入試では、高等学校等での教育内容を堅実に習得した勉学意欲の高い者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書等）、面接審査を基に総合的に評価する。また、基幹理工学部では指定校推薦制度を活用した「北九州地域連携型推薦入試」を実施し、地方貢献の意識の高い人材を受け入れる。
- 附属高校・系属高校推薦入試では、基礎学力に加え幅広い知識と豊かな教養を持ち、リーダーシップを発揮できる者を受け入れる。高校調査書等を基に総合的に評価する。
- 特別選抜入試【先進】では、理工系科目において極めて優れた能力を有する者を受け入れる。書類審査（理数系の各種コンテストの成績、志望理由書、高校調査書等）、面接審査を総合的に評価する。
- 帰国生・外国学生入学試験では、日本国外での教育・文化的な経験を持ち、かつ確かな基礎学力を備えた者を受け入れる。数学・理科の筆記試験、英語外部検定試験および面接審査等により総合的に評価する。
- 英語学位プログラム特別入試では、日本の教育制度において確かな基礎学力を身に着け、大学での英語による専門分野の学習に強い意欲を持った者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書、英語外部検定試験等）、筆記試験、面接審査を総合的に評価する。
- 英語学位プログラム A0 入試では、日本国外の教育制度において確かな基礎学力を身に着け、大学での英語による専門分野の学習に強い意欲を持った者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書、英語外部検定試験等）、面接審査を総合的に評価する。

学部等名 社会科学部：社会科学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsss/sss/about/policy/>）

社会科学部は、「社会科学の学際的・国際的・臨床的な研究・教育」を基本理念として、多領域の知を結集して問題解決する能力と社会を切り拓く社会構想力を身につける。多様な国、言語、価値、利害関係をもつ主体とコミュニケーションをとりながら公の場で自己の考えを主張し対話できる国際的公共的な表現力と協働力を身につける。理念と現実、思考と行動の矛盾や葛藤を自らが乗り越える主体的な自己修正力を身につける。それによって、地球規模の様々な課題に向き合い、持続可能な未来への国際社会及び地域社会の転換に主体的に貢献できる人材を育成することを目的としている。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsss/sss/about/policy/>）

複雑化するグローバル社会において高い志のもとに自ら課題やその解決策を明らかにし、国際社会および地域社会において周囲を巻き込みながらその実現を図るソーシャルイノベーションの担い手を育成する。

（社会科学の基礎的理解）

- 未知の問題や将来の危機に対して、豊かな感性による洞察力、多様な価値観の理解力、問題発見力を身につける。
- 確かな現実認識と社会の本質を理解する分析能力を身につける。

（学際性）

- 多領域の知を結集した問題解決能力と社会を切り拓く社会構想力を身につける。

（臨床性）

- 理論と実践、思考と行動を往還しながら、矛盾や葛藤を自らが乗り越える主体的

な自己修正力を身につける。 (国際性) ● 多様な国、言語、価値、利害関係を背景とする主体とコミュニケーションできる国際的な表現力と協働力を身につける。 以上の条件を満たし、所定の単位を取得した学生に対して、学士(社会科学)の学士号を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.waseda.jp/fsss/sss/about/policy/)
複雑化するグローバル社会の様態、理念、課題、解決策および実践について社会諸科学の学際的、臨床的、国際的な探究により総合的に学ぶ。主として1,2年生向けの「社会科学基礎教育課程」と主として3,4年生向けの「学際・複合教育課程」から構成する。 (初年次教育) 大学での学び方、学術的な表現方法、統計手法等について理解し、自らの学習戦略を立てる。 (社会科学基礎教育課程) 英語および別の外国語を1言語選択して履修する。社会科学の諸領域に共通する基本的知識および専門分野の本質および基礎を理解する。 (学際・複合教育課程) 社会科学の新しい領域、学際的な問題解決、専門性を理解する。 体系的履修の柱として「アカデミックカテゴリー」を提示する。 (ゼミナール) 少人数による履修指導と学習の中心の場とする。 (全学規模の学びの機会) 学術的副専攻「社会イノベーション」を設置し、全学へ提供する。 (国際的な学びの機会) 留学や海外インターンシップを選択しやすい学修環境を構築する。 (臨床的な学びの機会) 国内および海外へのフィールドワークの機会を積極的に提供する。 (英語学位プログラム) 「ソーシャルイノベーションプログラム(TAISI)」を設置する。持続可能な社会・都市・地域の実現、平和な社会の構築、経済的視点からの国際貿易や環境問題の解決、社会の活性化に寄与する組織のあり方、働き方および社会保障について学ぶ。日本語、英語の両学位プログラムの相乗効果を図る。 (3年卒業制度) 卓越した成績かつ本人が強く希望する場合に3年卒業を認め、早期の大学院進学、または社会での活躍の機会を開く。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.waseda.jp/fsss/sss/about/policy/)

【社会科学部の特色・社会的役割・大学教育で発展・向上させる力】

社会科学部は、早稲田大学教旨（『学問の独立』『学問の活用』『模範国民の造就』）を本旨として、日本各地また世界各国から多種多様な学生達が相互に刺激し感化し合いながら独創的な知を研鑽し、その成果を社会的責任の自覚のもとに活用して困難な課題に立ち向かう地球社会の未来への貢献者を育てる。

そのために、学際性（多くの専門領域の知識・技能によって本質を見抜き、学際的で独創的な知をもって問題解決する力、自由な討究によって相互に刺激・感化し合いながら社会的に共有・発信する力）、臨床性（豊かな感性をもって現実やその課題を発見・洞察する力、困難な状況にあっても解決策を切り開く力）、国際性（国・言語・民族・文化の理解の壁をこえて、問題解決のためにむけて利害等を統合する力）を発展・向上させる。

【入学者に求める資質】

豊かな人間性（自己内で対話する力、忍耐力、道徳、他者との共感的理解、多様性や新しい考えに開かれた態度、自立的活動力）、確かな学力（広く深い社会への知的な関心・想像力・探究心、論理的思考力、それらを支える確かな言語・数量・情報の知識と技能）、および実践力（課外活動の経験による自己管理、自己修正、チームワーク、困難な課題に立ち向かう勇気、やり遂げる力）において優れた個人の資質、活動実績のある者を幅広く日本国内および世界より求める。

【入学者選抜の方法（要素と評価方法）】

この方針のもと、以下の入試による選抜をおこなう。

- 一般選抜では、高校段階での基礎的な学習から得た知識をもとに、言語・数量・情報能力を活用して考え抜く力を持った者を受け入れる。筆記試験（「外国語」、「国語」、「地歴または数学」）の合計点をもとに評価する。
- 大学入学共通テスト利用入学試験では、高校段階での基礎的な学習を達成し、広く深い知的関心を有する者を受け入れる。大学入学共通テスト（5教科6科目）の合計点をもとに評価する。
- 全国自己推薦入学試験では、主体性を発揮し、卓越した資質を備えた者を全国各地域ブロックから受け入れる。書類審査（志望理由書、活動記録、高校調査書）、小論文ならびに面接審査をもとに、総合的に評価する。
- 附属高校、系属高校推薦制度では、豊かな人間性・確かな学力・実践力を備えた者を受け入れる。附属高校、系属高校からの推薦、書類審査（高校調査書）をもとに、総合的に評価する。
- 外国学生入学試験では、豊かな人間性・確かな学力・実践力を備えた外国学生を受け入れる。書類審査（日本留学試験、英語能力に関する試験結果）ならびに面接審査をもとに、総合的に評価する。
- 海外指定校推薦入学試験では、豊かな人間性・確かな学力・実践力を備えた者を高校等からの推薦により受け入れる。書類審査（志望理由書、英語能力あるいは日本語能力に関する試験結果、高校の成績、推薦書）ならびに面接審査をもとに、総合的に評価する。
- 英語学位プログラム A0 入学試験では、豊かな人間性・確かな学力・実践力を備えた者を受け入れる。書類審査（大学入学資格試験あるいは統一試験の試験結果、志望理由書、活動記録、英語能力に関する試験結果、高校の成績）ならびに（必要

により) 面接審査をもとに、総合的に評価する。

学部等名 人間科学部：人間環境科学科、健康福祉科学科、人間情報科学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.waseda.jp/fhum/hum/about/policy/>）

● **人間環境科学科**

20 世紀後半の経済成長は、科学技術の発達に支えられ、資源・エネルギーを未曾有の規模で消費する先進諸国に豊かさをもたらした。その反面、半世紀の間に 75 億人を超えるまでに急増した世界人口は、人間活動による環境問題を地域から地球規模へと拡大するとともに、地域・民族・国家間の格差や対立を増幅させた。このような問題の解決には、人間の日常生活の場面から、地域社会・国家・地球規模といった様々なスケールで生じている環境の問題を的確に把握し、正しい対処の方策を構想することが必要である。それを実現するためには、なによりも、従来の環境科学の枠を超えて、人間と自然環境、社会・文化的な環境との相互関係を広く理解し、その知見を環境政策にフィードバックできる人材が不可欠である。このような観点から教育研究を行うのが人間環境科学科であり、座学に留まらず、実験や社会調査やフィールドワークを通しての人間活動の環境影響評価、地域環境・建築環境・社会的環境における人間行動と発達の理解、持続的で内発的な地域創生や共生社会構築のあり方、格差社会や人の移動に伴う地域社会における文化的アイデンティティの維持や変化などを教育研究のテーマとしている。以上を通じて、人間環境に関する総合的な知識と課題解決能力をもつグローバルな人材を育成することを目指している。

● **健康福祉科学科**

少子高齢化が急速に進行し、超高齢社会となったわが国社会において、生涯を通じて心身ともに健康で豊かな生活を実現するための課題を明らかにし、解決方法を提案していくことは極めて重要である。この学科では、さまざまな角度から人間の健康福祉を考え、身体的、心理的、社会的に、健やかで、安心して、豊かに暮らしていくための、科学技術、支援の方法、社会システムなどを、総合的、多角的に学び、研究する。医学や健康科学、健康福祉に関する理工学、臨床心理学、社会的な支援を必要とする人たちのための相談援助、医療・福祉のシステムや産業など、幅広い知識の習得が可能である。また、実験や制作、ニーズや効果を測定するための調査、カウンセリングや相談援助の実技など、実践的な教育と、理論の構築能力や科学的合理的な説明能力を高めるための教育の両方が用意されている。それぞれの目標や興味にしたがって特定の分野を選び、そこを中心として、関連する分野も学ぶというように、幅広く重層的な学びを実現することができる。それによって、専門性を持ちながらも、応用範囲の広い知識、能力を身につけることができ、企業、行政などで活躍する途が拓けるとともに、専門職や研究者としても、広い視野を持って活躍することが可能となる。

● **人間情報科学科**

人間情報科学は、コンピュータ科学に限定されることなく、人が人やモノと関わる際に生まれる接面（インタフェース）を行き来するものを情報として捉え、情報が生まれるプロセスの分析から情報を作り出すシステムのデザインまでを、人とその成長を中心に置きながら科学的に追究する学問分野である。人間情報科学科では、コミュニケーション、教育、心理、認知等の基本的な活動や、ヒューマン・インタフェース、AI（人工知能）、VR（仮想現実）/AR（拡張現実）やIoT（モノのインターネット）等の先端技術において、人間が利用する情報—人間情報—に焦点をあて、情報科学、認知科学、コミュニケーション学、人間工学、教育工学の視座から学融合的に学び、研究する。現代社会における情報技術の高度化は、生活の利便性を高めただけでなく、人間の認知や学習、行動やコミュニケーションのスタイルにも著しい変化をもたらしつつある。人間と情報の真の共生を可能にする高度な問題解決能力を備え、国際社会に貢献する人材を育成することが、本学科の目的である。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.waseda.jp/fhum/hum/about/policy/>）

人間科学部は、創設当初から、早稲田大学の総合性・独創性を活かし、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、現代社会がかかえる諸問題の解決、あるいは持続可能な社会の構築に向けて、総合性および学際性を重視する教育研究を目指してきた。

人間科学部の目標は、人間性尊重の視座から、多様な専門研究領域を横断しつつ、生活世界を探究する複眼的な方法を用いて、社会および現実の理解を多角的・包括的に目指すことにある。また、そこで生じる諸問題について実践を通して解決するために、異職種・異領域間のマネジメントや新しい実践をデザインできる優れた能力を身につけた学生を養成することにある。

取り組むべき問題の対象は、「環境」「健康福祉」「情報」の学科ごとにそれぞれの特色を有する一方で、真摯な人間性追求のもと、よりよい社会を実現していこうとする強い意識を持ち、高度職業人・研究者としての基礎を身につけた人材を社会に送り出すことは共通する使命である。

これらの使命を具体化するために、人間科学部・人間科学研究科では、学生が獲得すべき中核的能力の保証（ディプロマ・ポリシー）として「A リテラシー」「B 方法論・専門性」「C 学際性・多様性」「D デザイン力」「E 協働性」「F 反省性・倫理観」「G 自己教育」の7領域17項目を示している。

また、これらの大目標を達成するまでの中目標（資料1）を学年ごとに定めている。各専門領域で定められた大目標・中目標の達成を目指した上で、卒業論文が評価基準・努力目標（表1）を満たしていることを卒業認定・学位授与の条件とする。これらの達成によって、卒業後の活躍の場は、国の内外や業種を問わず多様な領域で拓けていくことになる。

A リテラシー

- (1) 日本語の運用力、外国語の実践力の総合としての「言語力」を身につけている。
- (2) 情報・データ等の収集・分析・表現能力の総合としての「データ・リテラシー」を身につけている。

B 方法論・専門性

- (3) 科学的・論理的な思考力と専門的知識や方法論を身につけている。
- (4) 主観的経験や倫理的問題に対して、解釈学的方法を用いて考察できる。
- (5) 具体的な「専門性」のもと、帰納的で検証可能な分析を行うことができる。

C 学際性・多様性

- (6) 社会への開かれた関心と態度を身につけ、その多様性を理解し共感することができる。
- (7) 人間的事象を複眼的な視点からとらえ、そこに解決すべき課題を発見することができる。
- (8) 多様な専門性を横断する「インターディシプリナリー」な視点から、現実をとらえることができる。

D デザイン力

- (9) 課題探究（フィールドや実験）プロジェクトをマネジメントすることができる。
- (10) 課題解決のためのアクション・プランをデザインすることができる。
- (11) 研究成果や自らの考えを具体物として表現することができる。

E 協働性

- (12) 自分とは異なる意見、価値観、感性、文化、言語を持つ他者と協働することができる。
- (13) 様々な専門性をつないで「インタープロフェッション」を推進する知識や技能を身につけている。

F 反省性・倫理観

- (14) 社会的公正を尊重した倫理観を持ち、社会に貢献しようとする態度を身につけている。
- (15) 科学の可能性と限界を理解し、現実への批判や反省を行うことができる。

G 自己教育

- (16) 自律性・積極性・協調性を備え、自己教育を行うことができる。
- (17) 自らのキャリア・プランをデザインすることができる。

表1 博士学位論文・修士論文・卒業論文の評価基準 ◎は要件 ○は努力目標

内 容	目 標	博士	修士	学士
問題設定	1. 研究テーマに即した課題の設定が明確であること。	◎	◎	○
	2. 研究テーマに関する先行研究が適切にレビューされていること。	◎	○	○
方法	3. 研究テーマに即したデータや資料の収集および分析、あるいは解析や開発の方法論が用いられていること。	◎	◎	○
	4. データや資料の分析・解析等の着眼点が明確であること。	◎	◎	○
結果	5. データや資料の分析・解析等の結果が適切に明示されていること。	◎	◎	○
考察	6. 研究課題がデータや資料の分析・解析の結果に基づいて適切に考察されていること。	◎	◎	○
全体	7. 学術論文としての構成や論理展開が整っていること。	◎	◎	
	8. 文献の引用部分等が明確にされていること。	◎	◎	◎
独自性	9. 当該分野の研究の発展に寄与できる可能性がある独自性があること。	◎	○	○

卒業論文の評価基準は、8の条件を除き、全て努力目標である。ただし、卒業論文提出にあたっては、主たる指導教員や関連教員から指導を受けるなかで、当該分野、学際研究分野での具体的な基準を確認しなければならない。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fhum/hum/about/policy/>)

ディプロマ・ポリシーで定められた目標を達成すべく、人間科学部では少人数での学びの場を1年次から設定している。人間理解の基盤を形成する科目群である「人間科学基礎科目」では、「基礎ゼミⅠ、Ⅱ」「スタディスキル」「学生生活とセルフマネジメント」等の特色ある基礎教育によって、大学生活に必要な思考力や方法論、また自己教育のスキルを習得する。人間科学とは何かを問う「人間科学概論」、学科別に開講される「人間環境科学概論」「健康福祉科学概論」「人間情報科学概論」では、それぞれの視点から人間科学の実践性・複眼性を探求する。

課題探求の基盤となるスキルを育成する「リテラシー科目」は、データリテラシー、日本語、外国語などの科目から構成される。「データリテラシーⅠ、Ⅱ、Ⅲ」では、データ分析の際に必要な技能の習得、統計学の基礎や数量的な捉え方を実践的に学ぶ。日本語では、「学術的文章の作成」「日本語と日本文化」などの科目を通して文章作成の技能に加え、日本語の多様性や関連する日本文化を学習する。外国語では、英語をはじめ5ヶ国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）の外国語科目を設置し、それらの外国語科目から2ヶ国語を選択必修としている。語学のみならず言語の背景にある文化・歴史などの分野を深く学び、国際舞台で活躍するための基礎力を養う。

「人間科学教養科目」では、単なる一般教養的知識ではなく、人間科学として「人間」を広く深く理解し、また狭い専門性に閉じることのない多様かつ領域横断的な視点の涵養を目指す。「A. 人間学」「B. 科学論」「C. 論理的・数理的思考」「D. 言語」「E. システム」「F. デザイン」「G. 倫理と共生」の7カテゴリーから選択する。

専門科目は3つの領域に分けられる。実験・調査研究の方法論や背景にある基礎的な理論を、学内外のフィールド活動なども含めて実践的に学ぶ専門科目Ⅰ群（実験調査研究法）、専門性を発展させていく上での基盤となる専門科目Ⅱ－A群（基盤科目）、さらなる専門性を磨く専門科目Ⅱ－B群（発展科目）が段階的に設置されている。さらに大学院合併科目（専門科目Ⅲ群）や、大学院科目の先取り履修などの制度を設け、人間科学研究科修士2年制への進学を視野に入れたカリキュラムが組まれている。

専門科目はいずれも、社会科学、人文科学、自然科学などで伝統的に用いられてきた「文系」「理系」の枠を越えて、多様な専門性を横断しながら受講することができる。各人の興味やキャリアに応じて、専門科目を有機的に関連づけながら、自身で目標を設定し達成を図ることが期待される。

3年次からは全員が少人数制の専門ゼミに所属する。専門ゼミ選択にあたっては「指定科目」「推奨科目」の制度が設けられている、専門ゼミ選択において必要な科目履修の道筋が示されている。専門ゼミと4年次の卒業研究ゼミは一体であり、指導教員の下で2年間にわたり、専門領域別の研究方略と、自ら計画して行動する特別の学修としての研究の推進を目指す。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fhum/hum/about/policy/>)

【使命と教育理念】

人間科学部は、現代の人間が直面する複雑かつ多様な問題に対し、諸学問の融合をもって解決に取り組む「人間科学」の高い理想を掲げて教育・研究を行っている。真摯に人間性を追求しながら、よりよい社会を実現していこうとする強い意識を持ち、高度職業人・研究者としての基礎を身につけた人材を社会に送り出すことを使命としている。

人間科学部のカリキュラムは、学生による主体的な探究と、理論に裏付けられた実践的な活動を重視している。調査・実験・フィールドワークなどへの参加を通じて問題発見・分析・解決力を育成するよう、体系的かつ段階的に構成されている。授業やゼミにおいては、自身の興味関心や獲得したい専門性に応じて、時に高等学校および中等教育学校における文理の枠組みを超えながら、学際的な探究を行う。

【期待する学生像】

このような学部教育に対応できるよう、人間科学部が入学者に特に期待する資質・能力は次の通りである。

- A リテラシー：言語・数量・自然科学および社会科学に関する知識を用いて問題解決ができる。
- B 方法論・専門性：論理的思考力に基づき、事象を客観的・批判的に捉えることができる。
- C 学際性・多様性：多様な学問分野や、自然・人間・社会の複雑なありようを、複数の視点から捉えることができる。
- D デザイン力：問題解決の手段を考案し、他者が理解できるように表現することができる。
- E 協働性：自他の個性を認め、多様な他者と協働しながら学ぶことができる。
- F 反省性・倫理観・自己教育：知的好奇心と進取の精神を持って、新しい分野にチャレンジできる。

【入学者選抜の方法】

以上の方針に基づき、多様な学生を確保するために、一般選抜、大学入学共通テスト利用入学試験（共通テストのみ方式）、一般選抜（共通テスト＋数学選抜方式）、総合型選抜入学試験（FACT選抜）、指定校推薦入学試験の5つを核とする入学試験を実施する。

一般選抜

高い基礎学力を持ち、かつ、本学部の多様性の促進に寄与し、学生間の学際的な交流を活性化する潜在性を有する者を選抜する。高等学校および中等教育学校に選択した科目の異なる学生がバランスよく在籍していることが学際的な交流を活性化させるという考えのもと、文系方式と理系方式の試験を実施する。文系方式では英語・国語・社会または数学について、理系方式では英語・数学・理科について、高等学校および中等教育学校の教科科目に関する基礎学力を、学部独自試験により評価する。英語では、どのような学問分野でも専門的な学習を進めていく上で必須となり、国際的な活動を支えるものとなる外国語能力を評価する。文系方式では国語について、理系方式では数学について、論理性、思考力、言語・数量を活用する力を評価する。人間科学部における学びの多様性をふまえ、文系方式では日本史、世界史、数学を、理系方式では物理、化学、生物を選択科目として設定し、その基礎学力を評価する。

大学入学共通テスト利用入学試験（共通テストのみ方式）

幅広い知識と優れた技能を持った学生を選抜するため、大学入学共通テストにより、外国語、国語、地歴・公民から1科目、数学、理科から1ないし2科目、合計5教科6科目という幅広い教科科目に関する知識と技能を総合的に評価する。

一般選抜（共通テスト＋数学選抜方式）

幅広い知識を持ちつつ、特に数学的な論理性、思考力、発想力を特に重視した選抜をおこなう。大学入学共通テストにより、外国語、国語、地歴・公民から1科目、数学、理科から1ないし2科目、合計5教科6科目という幅広い教科科目に関する知識と技能を総合的に評価するとともに、二次試験として数学に関する高いレベルの知識と技能を学部独自入試により評価する。

総合型選抜入学試験（FACT選抜）

高等学校および中等教育学校における全教科の評定平均値をバランスよく評価するとともに、科学への関心と思考力、論理性、論述力、表現力を重視する観点から、理科・国語の2教科の評定平均値を特に重視する。高等学校および中等教育学校での活動状況、人間科学部への志望動機と学習への意欲、大学での学習目標と自身の将来像の具体性、およびそれらが志望する学科と適合しているかについて、提出書類および面接等で評価する。大学入学後に世界の学問的知見に触れ、また異なる文化、異なる価値観と接するために、高校生としての基礎的な外国語能力を、第三者機関が実施する語学能力試験等により評価する。論述課題では、データを客観的・批判的に読み取り要約する分析力、得られた洞察の合理性を自ら確認し、また展開する論理性や省察性、示すべき事柄を必要に応じて図や表を併用しながら他者にわかりやすく伝える表現力を評価する。分析力・思考力・判断力・論理性・省察性・表現力については、面接における対面でのやりとりを通じて総合的に評価する。

指定校推薦入学試験

高等学校または中等教育学校における学びを優秀な成績で修めた、主体的に学ぶ強い意思を持った者を選抜するため、高等学校および中等教育学校における全教科の評定平均値、課外活動等での活動実績および主体的に多様な人々と協働して学ぶ態度等を調査書により評価する。志望理由書および面接等により本学部で専門性を深め・広げるにあたっての事前の準備状況、また、本学部・志望する学科で学ぶ意欲と明確な志向、対話力、表現力、主体性等を評価する。

学部等名	スポーツ科学部：スポーツ科学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.waseda.jp/fsps/sps/about/policy/ ）	「スポーツ」をキーワードとして社会、文化、歴史、生命、自然にかかわる広い教養を身につけ、スポーツはもとよりそれに留まらない社会の様々な領域で知識と経験を活かし、スポーツを通じて市民生活を豊かに充実したものとするための「社会的ニーズ」に的確に対応できる人材を養成する。さらに、学部教育により培った自らが考える力、指導力、コミュニケーション能力を備え、トップレベルの選手を育成できる人材が「スポーツニーズ」に応えるべく、日本ひいては世界のスポーツ界をリードしていく。

また、ビッグサイエンスに成長しつつあるスポーツ科学をより発展させ、世界最高水準のスポーツ教育研究拠点として国際的に貢献することを目指し、「アカデミックニーズ」に応えるための教育研究を展開する。

- **スポーツ医科学コース**

このコースでは、スポーツ科学のうち主に自然科学系領域を学ぶ。スポーツ医学、運動生理学、運動生化学、バイオメカニクス、スポーツ心理学、スポーツ栄養学、トレーニング科学などを、講義や実習を通して学修し、実践・応用が可能になることを目指す。そこで、これら諸学問の理論を学ぶとともに、スポーツ・運動時の応答や適応ならびに合目的な運動発現のメカニズムを解明するための研究技法を習得し、獲得した知識をスポーツの現場で応用する力を養う。

- **健康スポーツコース**

このコースでは、健康スポーツ科学に関連する広範な学問領域から、心身に及ぼすスポーツや運動を含む身体活動の役割に関する基礎知識を学習した上で、規則的なスポーツ活動や身体活動による生活習慣病の予防、高齢者や疾病者における「生活の質」の向上、および心身への影響に対するメカニズムなどの理論的解明を行うとともに、スポーツや運動を通じた生涯にわたる心身の健康づくりさらには「生活の質」の向上を実現するための具体的な方法についての教育研究を行う。

- **トレーナーコース**

このコースでは、実学としてのスポーツ科学を学ぶことを第一義の目的とし、スポーツ医科学に係わる基礎知識の習得に加え、スポーツ外傷・障害の予防、リコンディショニングやコンディショニングなどの具体的な実践技法も身につける場を提供する。このことにより、競技レベル、年齢、性別にかかわらず、個人の特性に合わせたコンディショニングや健康体力づくりをサポートするアスレティックトレーナーおよびストレングス&コンディショニングスペシャリストとして必要な能力、ならびに広く社会一般にスポーツ医科学の知見と実践技法を伝播する能力を養う。

- **スポーツ文化コース**

このコースでは、スポーツを広義にとらえ、これと文化、社会、人間との関係を科学的に考えるなかで、これらの関係のなかに伏在する諸問題を解決したり、新しい文化のあり方を提言したりできる人材の育成に努める。また、論理性と実証性に基づいた優れた意見を提言しうるジャーナリストの養成にも本コースは対応する。

- **スポーツビジネスコース**

このコースでは、スポーツに関する幅広い知識の学習とともに、社会調査やスポーツマネジメントに関わる実習によってスポーツビジネスの場で活躍できる専門的技能を習得し、その基礎の上に、マーケティング・メディア・イベント・用品・施設などスポーツ産業の諸現象について分析できる人材の育成に努める。

- **スポーツコーチングコース**

このコースでは、スポーツ科学や様々なレベルのスポーツ技能向上策および関連

するコーチングの理論と方法を修得するためのカリキュラムを用意し、ジュニアからシニアまで、愛好者からアスリートまでの広範な実践レベルに対応できるスポーツ指導者・アナリストの養成と、それを自ら競技向上に応用・実践できるアスリートの育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.waseda.jp/fsps/sps/about/policy/）
スポーツ科学部は、早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとで、スポーツ科学に関する専門性を高めるとともに、スポーツ実践や研究活動を通じてコミュニケーション力を高め、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。具体的には、健康増進や「生活の質」の向上を目的としたスポーツ振興やスポーツ関連ビジネスをマネジメントできる人材の育成、スポーツ教育カリキュラムの開発ならびに高度な知識と実践力を有した教員の養成といった《社会的なニーズ》に応えるとともに、競技力向上のための方策の開発と教育、競技スポーツや生涯スポーツのあらゆる場面におけるスポーツ外傷・障害の予防やコンディショニングの指導ができる人材の育成といった《スポーツニーズ》、スポーツに関わる諸科学を研鑽して、変動する時代におけるスポーツのあり方や価値を適切に提言できる研究者の育成という《アカデミックニーズ》に応えることができる人材を養成する。 これらの目的を具体化するために必要な能力を、「① リテラシー」「② 専門性」「③ コミュニケーション力」「④ 独創性」の4項目で示し、これらの能力を身につけた学生に学位を授与する。 （学習成果の明示） 上記を踏まえ、スポーツ科学部では、卒業時に身につけておくべき能力を以下のよう に定める。 ① リテラシー ・外国語の実践的な総合力としての「言語力」を身につけている。 ・情報を読み解く「データ・リテラシー」を身につけている。 ② 専門性 ・スポーツ科学に関する専門的知識を習得している。 ・スポーツ科学分野における基礎的な原理・原則を理解し、応用することができる。 ③ コミュニケーション力 ・能力や素養を活かすために、他者との相互理解を実現する力を身につけている。 ・一元的な思想や価値観にとらわれないグローバルな視点を持ち、多様な人々と協働して地球社会に貢献できる姿勢を身につけている。 ④ 独創性 ・進取の精神をもって伝統の殻を破る新しい概念を構築する力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.waseda.jp/fsps/sps/about/policy/）
スポーツに関連する幅広い教養を身につけ、学生の目的・興味に応じた適切な学習を行うことができるように教育課程を編成するという基本的な考え方に立ち、1年次には英語や情報処理を含めた基礎的な学習能力やコミュニケーション能力の養成に努めるとともに、グローバルエデュケーションセンター設置科目などの教養的な学科目を履修することを奨励し、各自の学習目標と大まかな進路について熟慮させた上で、2年次にコースを選定させる。また、専門科目の履修に関しても、多様な学科目の中か

ら各自の学習目標を達成するために最適な履修が可能となるように、必修となるコア科目を最小限に抑制して学生の選択の自由度を高めるように配慮しながら、必修科目である2年次後半から4年次までの演習や卒業研究によって専門性を高める。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsps/sps/about/policy/>)

早稲田大学では、『学問の独立』の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れている。スポーツ科学部では、「一般選抜」をはじめとして「大学入学共通テスト利用入試」、「総合型選抜Ⅰ群（トップアスリート入試）」、「総合型選抜Ⅱ群（アスリート選抜入試）」、「総合型選抜Ⅲ群（スポーツ自己推薦入試）」等の多様な入試を実施している。これらの多様な入試形態を通して、スポーツマインドを持ちかつ学力に優れた受験生から高い競技力と学力を持つ受験生まで、多様な個性をもった学生を受け入れ、大学がより豊かで充実した学問の場となることを目指す。スポーツには「する」という関わり方だけではなく、「みる」、「ささえる」など様々な関わり方がある。本学部ではそのような幅広いスポーツ科学を真摯に探求し、スポーツの価値の向上やスポーツ科学の発展に大いに貢献できる人材を受け入れる。

学部等名 国際教養学部：国際教養学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.waseda.jp/fire/sils/about/overview/>）

現代社会においては、自由で公正な社会を実現するための「志」をもった人材、国際的な共通語である英語により情報発信できる人材、および幅広い教養を兼ね備えた人材に対する需要が年々高まっている。

こうした社会的要請に応えるため、国際教養学部は独自の理念とカリキュラムの下に2004年開設された。具体的には次のような学生を育成することを目的としている。

- グローバル化した世界が直面している諸課題を解決しようとする志をもった学生
- 自己の文化の独自性を認識し、かつ多文化社会での共存を目指すことができる学生
- 現代の学問の基礎を理解し、かつ先端的・学際的学問領域に関心を抱く学生
自己の思考を発信できる外国語能力を有する学生

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.waseda.jp/fire/sils/about/overview/>）

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

国際教養学部は世界が直面する課題に対し多角的な視野と見識を持って対応することのできる人材を育成し、高い倫理観、競争力、そして人間性の上に世界の舞台で行動できる地球市民を輩出する。具体的には卒業までに以下のとおりの能力の習得をもとめ、全日制で標準4年以上の在籍期間及び取得単位数124単位の基準を満たした者に学士（国際教養学）を授与する。

1. 世界に通用するコミュニケーション能力の習得。

2. 最低限3つ以上の異なる分野についての英語による入門レベルの講義科目の履修。 3. 16単位以上の中級レベルの講義科目、16単位以上の上級レベルの講義科目の履修。 4. 母語、英語以外の第三の言語の習得、或いはそのうち主要言語（中国語・朝鮮語・フランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語）を用いた選択科目の習得。母語が日本語ではない学生の場合は、日本語による読解、聴解、作文、会話をスムーズに行う能力の習得。 5. 統計学の基礎的知識の習得。 6. 基礎、中級、上級の異なるレベルの演習及び卒業研究もしくはそれに相当する研究を通じた、英語文献・論文からの知識の吸収、及び、論理的な思考力やプレゼンテーション能力の習得。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.waseda.jp/fire/sils/about/overview/）
少人数指導の下で基礎的な教養を磨くとともに、多元的な視点、論理的思考を養うことに重点をおいたリベラルアーツ教育をおこなう。学部での共通言語を英語とし、日本語を母語とする学生には1年間の海外留学を必修とするなど高い国際感覚を身につけられる環境を整える。また、本学部のカリキュラムを、多数の留学生を学生組織の中に収めることにより、さらに強固なものにする。 さまざまな分野の科目を履修するリベラルアーツ教育を実践する。多角的な視点を養い、論理的な思考力と分析力、実行力を身につけるため、開講科目を特定の分野に限定せず、世界の最新情勢を包括する多分野に幅広くわたる学際的な学習を可能にする。 1. 英語力、第三言語の習得を通じた異文化の理解、統計学の基礎など、基礎教育においては各人のレベルにわかれて履修できるように科目を準備する。さらに高等教育に必須レベルの課題を課した基礎演習クラスを、英語により実施する。日本語を母語とする学生には、日本語による授業の履修も義務付ける。 2. 教員と学生、そして学生同士での活発なコミュニケーションを大切にするため、少人数でのクラスを基本とする。クラス人数の上限を20人程度とする演習を、初級、中級、上級と入学時から卒業時までバランスよく配置する。講義型の授業では、日本出身の学生と世界各国からの学生、世界のトップクラスの協定校からの交換留学生が、ともに受講し、英語を介して議論する機会を提供する。 3. ほぼ全ての講義科目を英語で行い英語による多彩な科目の習得を課す。日本語を母語としない学生には、日本語習得のための全学的プログラムを活用し、提供する。より国際的な広い視野を獲得させるために、日本語を母語とする学生には、1年間の海外留学を必修とする。第三言語として、早稲田大学の全学的カリキュラムを活用した、多種多様な言語を履修できるシステムを提供する。英語圏のみならず、全世界的に展開されている早稲田大学協定校ネットワークの大学等から、留学先を選べるようにする。さらに主要言語（英語・中国語・朝鮮語・フランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語）圏の海外留学については、準備段階に履修する科目や帰国後のフォローアップにあたる科目を用意する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.waseda.jp/fire/sils/about/overview/）

早稲田大学の掲げる『学問の独立』という理念のもと、高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から迎え入れる。

国際教養学部は以下のような学生の選抜に努める。

1. 英語で学習する強い意欲を持つ者
2. 母語以外の言語で効果的に意思疎通できる言語能力、または、その潜在能力を有する者
3. 複数の学問分野の視点から諸課題に取り組むにあたり、総じて高い学力、または、その潜在能力を有する者
4. 独自の視点から問題を分析できる批判的能力、または、その潜在能力を有する者
5. 考えや情報を発表するときに、明確かつ正確にそれらを伝達できる表現能力、または、その潜在能力を有する者
6. 日本国内外での局所的かつ広域的な、多様な文化、修学の経験を持ち、本学部に多様性をもたらす者
7. 新しい環境において生活、学習することに挑戦できる社会的・心理的な適応性と柔軟性を有する者
8. 国際的、比較相対的視点から知的、道徳的問題に取り組む意思と意欲を有する者

国際教養学部の各入試制度では上記のうちの複数の原則に重きを置きつつ、全体として八原則を体現するよう努める

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

早稲田大学 Web サイト_組織

<https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations>

組織図（2022 年 4 月 1 日現在）

<https://www.waseda.jp/top/assets/uploads/2022/04/337777a6edcaa45793fc216213b05ddb.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	人	—					人
政治経済学部	—	68 人	32 人	8 人	4 人	13 人	125 人
法学部	—	58 人	11 人	3 人	0 人	10 人	82 人
文化構想学部	—	66 人	13 人	6 人	2 人	10 人	97 人
文学部	—	79 人	10 人	9 人	1 人	12 人	111 人
教育学部	—	103 人	9 人	11 人	10 人	15 人	148 人
商学部	—	56 人	19 人	7 人	2 人	9 人	93 人
基幹理工学部	—	89 人	9 人	20 人	3 人	27 人	148 人
創造理工学部	—	80 人	18 人	16 人	11 人	19 人	144 人
先進理工学部	—	84 人	10 人	18 人	13 人	22 人	147 人
社会科学部	—	48 人	13 人	8 人	0 人	7 人	76 人
人間科学部	—	61 人	22 人	11 人	10 人	9 人	113 人
スポーツ科学部	—	42 人	11 人	6 人	13 人	2 人	74 人
国際教養学部	—	48 人	21 人	8 人	1 人	4 人	82 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		2001 人					2002 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：早稲田大学研究者データベース https://w-rdb.waseda.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
早稲田大学 大学総合研究センター Web サイト 教育方法研究開発部門 https://www.waseda.jp/inst/ches/ctl/faculty/ ①FD プログラム https://www.waseda.jp/inst/ches/ctl/faculty/fd/ 【取組の概要】 FD を「教育の質を保証し、さらに向上させるための組織的取り組み」と位置付け、「新任教員セミナー」、「海外協定校派遣型 FD プログラム」、「CTLT セミナー」、「Faculty Cafe」、「Edu Lunch」、「授業相互見学」などのプログラムの提供やアクティブな教育手法の整理、紹介をおこなっています。 ②表彰制度 https://www.waseda.jp/inst/ches/ctl/faculty/awards/ ③Good Practices https://www.waseda.jp/inst/ches/ctl/faculty/goodpractice/ ④学生授業アンケート https://www.waseda.jp/inst/ches/ctl/faculty/evaluation/							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
政治経済学部	900 人	811 人	90.1%	3600 人	3870 人	107.5%	若干名	9 人

法学部	740 人	777 人	105.0%	2960 人	3160 人	106.8%	若干名	4 人
文化構想学部	860 人	858 人	99.8%	3440 人	3700 人	107.6%	若干名	5 人
文学部	660 人	662 人	100.3%	2640 人	2829 人	107.2%	若干名	20 人
教育学部	960 人	966 人	100.6%	3840 人	4075 人	106.1%	若干名	3 人
商学部	900 人	925 人	102.8%	3600 人	3829 人	106.4%	若干名	1 人
基幹理工学部	595 人	553 人	92.9%	2380 人	2449 人	102.9%	若干名	2 人
創造理工学部	595 人	595 人	100.0%	2380 人	2473 人	103.9%	若干名	2 人
先進理工学部	540 人	542 人	100.4%	2160 人	2241 人	103.8%	若干名	1 人
社会科学部	630 人	595 人	94.4%	2520 人	2684 人	106.5%	若干名	1 人
人間科学部	560 人	582 人	103.9%	2240 人	2359 人	105.3%	若干名	0 人
スポーツ科学部	400 人	386 人	96.5%	1600 人	1652 人	103.3%	若干名	3 人
国際教養学部	600 人	421 人	70.2%	2400 人	2458 人	102.4%	若干名	5 人
人間科学部 (通信教育課程)	150 人	84 人	56.0%	1050 人	873 人	83.1%	150 人	165 人
合計	9090 人	8757 人	96.3%	36810 人	38652 人	105.0%	150 人	221 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
政治経済学部	901 人 (100%)	75 人 (8.3%)	728 人 (80.8%)	98 人 (10.9%)
法学部	763 人 (100%)	107 人 (14.0%)	582 人 (76.3%)	74 人 (9.7%)
文化構想学部	889 人 (100%)	36 人 (4.0%)	736 人 (82.8%)	117 人 (13.2%)
文学部	666 人 (100%)	73 人 (11.0%)	495 人 (74.3%)	98 人 (14.7%)
教育学部	926 人 (100%)	117 人 (12.6%)	714 人 (77.1%)	95 人 (10.3%)
商学部	908 人 (100%)	33 人 (3.6%)	792 人 (87.2%)	83 人 (9.1%)
基幹理工学部	592 人 (100%)	362 人 (61.1%)	194 人 (32.8%)	36 人 (6.1%)
創造理工学部	577 人 (100%)	377 人 (65.3%)	170 人 (29.5%)	30 人 (5.2%)
先進理工学部	512 人 (100%)	405 人 (79.1%)	88 人 (17.2%)	19 人 (3.7%)
社会科学部	620 人 (100%)	26 人 (4.2%)	523 人 (84.4%)	71 人 (11.5%)
人間科学部	536 人 (100%)	77 人 (14.4%)	393 人 (73.3%)	66 人 (12.3%)
スポーツ科学部	393 人 (100%)	33 人 (8.4%)	316 人 (80.4%)	44 人 (11.2%)

国際教養学部	608 人 (100%)	87 人 (14.3%)	394 人 (64.8%)	127 人 (20.9%)
合計	8891 人 (100%)	1808 人 (20.3%)	6125 人 (68.9%)	958 人 (10.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (株) NTTデータ、アクセンチュア (株)、国家公務員一般職、東京海上日動火災保険 (株)、楽天グループ (株)、富士通 (株)、PwCコンサルティング (同)、日本電気 (NEC) (株)、(株) 野村総合研究所、(株) 三井住友銀行				
(備考) 「その他」は、「進路未報告者」を含む				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
合計					
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
■授業計画（シラバス）の作成過程 例年 9 月下旬に行われる全学部の教務主任が参加する会議において、翌年度のシラバスの作成にあたっての注意点を周知し、授業概要、授業の到達目標、事前・事後学習の内容、授業計画、教科書、参考文献、成績評価方法について適切に記載するよう指示している。記載内容の確認は各学部にて行っている。 ■授業計画の作成・公表時期 上記の会議体での全学的な方針決定を受けて、10 月頃より各学部において各担当教員にシラバスの執筆を依頼する。提出されたシラバスについて各学部において確認を行い、適宜修正したうえで、例年 3 月中旬までには翌年度のものを公表するようにしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
■卒業の認定に関する方針の具体的な内容 各学部において学位授与の方針を定めて、Webサイトで公表している。 ■卒業の認定に関する方針の適切な実施状況（卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している旨を記載すること） 各学部で定めた卒業の認定・学位授与の方針に基づき予め学生の入学年度等の毎に設定された卒業要件を満たしていることを確認し、卒業の認定をしている。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
政治経済学部	政治学科	124 単位	有	40 単位
	経済学科	124 単位	有	40 単位

	国際政治経済学科	124 単位	有	40 単位
法学部	-	136 単位	有	44 単位
文化構想学部	文化構想学科	124 単位	有	40-44 単位
文学部	文学科	124 単位	有	40-44 単位
教育学部	教育学科	124~134 単位	有	40-44 単位
	国語国文学科	124 単位	有	40 単位
	英語英文学科	124 単位	有	40 単位
	社会科	124 単位	有	40 単位
	理学科	134 単位	有	44 単位
	数学科	124 単位	有	40 単位
	複合文化学科	124 単位	有	40 単位
商学部	-	124 単位	有	40 単位
基幹理工学部	数学科	126 単位	有	49 単位
	応用数理学科	126 単位	有	49 単位
	情報理工学科	126 単位	有	49 単位
	機械科学・航空宇宙学科	126 単位	有	49 単位
	電子物理システム学科	126 単位	有	49 単位
	表現工学科	126 単位	有	49 単位
	情報通信学科	126 単位	有	49 単位
創造理工学部	建築学科	136 単位	有	49 単位
	総合機械工学科	136 単位	有	49 単位
	経営システム工学科	136 単位	有	49 単位
	社会環境工学科	136 単位	有	49 単位
	環境資源工学科	136 単位	有	49 単位
先進理工学部	物理学科	132 単位	有	49 単位
	応用物理学科	132 単位	有	49 単位
	化学・生命化学科	136 単位	有	49 単位
	応用化学科	136 単位	有	49 単位
	生命医科学科	136 単位	有	49 単位
	電気・情報生命工学科	135 単位	有	49 単位
社会科学部	社会科学科	124 単位	有	40-48 単位
人間科学部	人間環境科学科	124 単位	有	41 単位
	健康福祉科学科	124 単位	有	41 単位
	人間情報科学科	124 単位	有	41 単位
スポーツ科学部	スポーツ科学科	124 単位	有	40 単位
国際教養学部	国際教養学科	124 単位	有	40-42 単位

人間科学部 (通信教育 課程)	人間環境科学 科	124 単位	有	40 単位
	健康福祉科学 科	124 単位	有	40 単位
	人間情報科学 科	124 単位	有	40 単位
G P Aの活用状況(任意記 載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参 考情報 (任意記載事項)		学生生活・学修行動調査 報告書 https://www.waseda.jp/inst/ches/assets/uploads/2022/05/2021_Student-Survey.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： 早稲田大学 Web サイト 学習環境や課外活動 https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/environment 交通アクセス https://www.waseda.jp/top/access 財産目録 https://www.waseda.jp/top/assets/uploads/2021/05/10_zaimoku20.pdf 文化施設 https://www.waseda.jp/culture/about/facilities/ 施設（スポーツ） https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/facility/ 図書館・図書室一覧 https://www.waseda.jp/library/libraries/room/ 端末室・ネットワークなど http://www.waseda.jp/wits/data/index.html 学生の成長の場所（施設を使いたい） https://www.waseda.jp/top/students#anc_2

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
政治経済 学部	政治学科	999,000 円	200,000 円	17,700 円	実験実習料 （※実験実習料は、 1 年次のものを参考） 学生読書室図書費、 学会入会金、 学会年会費、 学生健康増進互助会費
	経済学科	999,000 円	200,000 円	17,700 円	
	国際政治 経済学科	999,000 円	200,000 円	17,700 円	
法学部	-	960,000 円	200,000 円	10,700 円	
文化構想 学部	文化構想 学科	1,009,000 円	200,000 円	4,000 円	
文学部	文学科	1,009,000 円	200,000 円	4,000 円	
教育学部	教育学科	960,000 円	200,000 円	5,650～45,650 円	
	国語国文 学科	960,000 円	200,000 円	5,650 円	
	英語英文 学科	971,000 円	200,000 円	15,740 円	
	社会科	960,000 円	200,000 円	5,650 円	
	理学科	1,446,000 円	200,000 円	94,000 円	
	数学科	1,446,000 円	200,000 円	9,000 円	
	複合文化 学科	960,000 円	200,000 円	10,650 円	
商学部	-	971,000 円	200,000 円	10,800 円	
基幹理工 学部	数学科	1,446,000 円	200,000 円	63,000 円	
	応用数理 学科	1,446,000 円	200,000 円	63,000 円	
	情報理工 学科	1,446,000 円	200,000 円	63,000 円	
	機械科 学・航空 宇宙学科	1,446,000 円	200,000 円	63,000 円	
	電子物理 システム 学科	1,446,000 円	200,000 円	63,000 円	
	表現工学 科	1,446,000 円	200,000 円	63,000 円	
	情報通信 学科	1,446,000 円	200,000 円	63,000 円	
創造理工 学部	建築学科	1,446,000 円	200,000 円	99,000 円	
	総合機械 工学科	1,446,000 円	200,000 円	97,000 円	
	経営シス テム工学 科	1,446,000 円	200,000 円	83,000 円	
	社会環境 工学科	1,446,000 円	200,000 円	99,000 円	
	環境資源 工学科	1,446,000 円	200,000 円	99,000 円	
先進理工 学部	物理学科	1,446,000 円	200,000 円	103,000 円	
	応用物理 学科	1,446,000 円	200,000 円	103,000 円	
	化学・生 命化学科	1,446,000 円	200,000 円	103,000 円	
	応用化学 科	1,446,000 円	200,000 円	103,000 円	
	生命医科 学科	1,446,000 円	200,000 円	103,000 円	

	電気・情報生命工学科	1,446,000 円	200,000 円	103,000 円
社会科学部	社会科学科	971,000 円	200,000 円	7,010 円
人間科学部	人間環境科学科	1,371,000 円	200,000 円	30,000 円
	健康福祉科学科	1,371,000 円	200,000 円	30,000 円
	人間情報科学科	1,371,000 円	200,000 円	30,000 円
人間科学部 通信教育課程 (e スクール)	人間環境科学科	35,200 円×登録単位数 (α/β コース同様)	200,000 円	一部科目でのみ徴収
	健康福祉科学科	35,200 円×登録単位数 (α/β コース同様)	200,000 円	一部科目でのみ徴収
	人間情報科学科	35,200 円×登録単位数 (α/β コース同様)	200,000 円	一部科目でのみ徴収
スポーツ科学部	スポーツ科学科	1,394,000 円	200,000 円	46,000 円
国際教養学部	国際教養学科	1,390,000 円	200,000 円	3,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

大学 Web サイト：「学生の成長の場所」

https://www.waseda.jp/top/students#anc_2

選択科目：あなただけの「強みを育てよう」

- [グローバルエデュケーションセンター](https://www.waseda.jp/inst/gec/) <https://www.waseda.jp/inst/gec/>
文章作成：自立した書き手を育てる
- [アカデミック・ライティング・プログラム](https://www.waseda.jp/inst/aw/) <https://www.waseda.jp/inst/aw/>
情報収集・読書：貴重な書籍も集まる「知の宝庫」
- [図書館](https://www.waseda.jp/library/) <https://www.waseda.jp/library/>
資格取得：誰でも学べる公開講座
- [エクステンションセンター](https://www.wuext.waseda.jp/) <https://www.wuext.waseda.jp/>
ものづくり：自分の手でアイデアを実現できる
- [WASEDA ものづくり工房](http://www.koubou.sci.waseda.ac.jp/) <http://www.koubou.sci.waseda.ac.jp/>
プロジェクト・プログラム：社会で役立つ確かな力を養う
- [My Vision Program](https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/non-degree/vision/) <https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/non-degree/vision/>
留学：早稲田と世界をつなぐ窓口
- [留学センター](https://www.waseda.jp/inst/cie/) <https://www.waseda.jp/inst/cie/>
国際交流：キャンパス内での国際交流
- [ICC（異文化交流センター）](https://www.waseda.jp/inst/icc/) <https://www.waseda.jp/inst/icc/>
外国語科目：あなただけの「強みを育てよう」
- [グローバルエデュケーションセンター（GEC）](https://www.waseda.jp/inst/gec/) <https://www.waseda.jp/inst/gec/>
プロジェクト・プログラム：自由に選べる多彩なプログラム
- [留学プログラム](https://www.waseda.jp/inst/cie/) <https://www.waseda.jp/inst/cie/>

プロジェクト・プログラム：4年間の少人数カリキュラム

- グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム (GLFP)

<http://www2.cie-waseda.jp/glfp/jp/>

プロジェクト・プログラム：キャンパスで世界各国を体験

- ICC カントリーフェスタ <https://www.waseda.jp/inst/icc/>

プロジェクト・プログラム：カジュアルな日本語／英語会話を通じた異文化交流

- にほんごペラペラクラブ／イングリッシュ・チャットクラブ

<https://www.waseda.jp/inst/icc/>

プロジェクト・プログラム：時代の先駆者の話から学ぶ

- ICC トーク・セッション <https://www.waseda.jp/inst/icc/>

プロジェクト・プログラム：早稲田を訪問中の外国人学生と交流

- ICC ビジター・セッション <https://www.waseda.jp/inst/icc/>

プロジェクト・プログラム：ホンネで語り合う先の相互理解

- ICC 日中韓ホンネ交流キャンプ <https://www.waseda.jp/inst/icc/>

プロジェクト・プログラム：日本の文化や技術を学ぶ日帰り学外イベント

- ICC フィールド・トリップ <https://www.waseda.jp/inst/icc/>

プロジェクト・プログラム：母国の言語と文化を教え合う

- ICC ランゲージ&カルチャー・エクスチェンジ・プログラム

<https://www.waseda.jp/inst/icc/>

プロジェクト・プログラム：多様な価値観に出会うチャンス

- 海外留学（長期） <https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad/1year>

プロジェクト・プログラム：語学研修や異文化を体験

- 海外留学（短期） [https://www.waseda.jp/inst/cie/from-](https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad/short)

[waseda/abroad/short](https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad/short)

プロジェクト・プログラム：異文化交流活動の牽引役

- ICC 学生スタッフリーダー (SSL) <https://www.waseda.jp/inst/icc/>

サークル活動：サークル活動を支援する

- 学生生活課 <https://www.waseda.jp/inst/student/>

部活動：部活動を支援する

- 競技スポーツセンター <https://www.waseda.jp/inst/athletic/>

障がい学生支援：全学生が同じ環境で学ぶために

- 障がい学生支援室 <https://www.waseda.jp/inst/dsso/>

国際交流：キャンパス内で国際交流

- ICC（異文化交流センター） <https://www.waseda.jp/inst/icc/>

学生寮：寮生活があなたの学びをサポート

- レジデンスセンター <https://www.waseda.jp/inst/rlc/>

留学：早稲田と世界をつなぐ窓口

- 留学センター <https://www.waseda.jp/inst/cie/>

新入生サポート：迷ったらここへ！学業の総合窓口

- 早稲田ポータルオフィス <http://www.waseda.jp/wpo/>

修学上の相談・履修支援：学生スタッフによるオンライン“対面”サポート

- Talk Anywhere <https://www.waseda.jp/wpo/support/talkanywhere.html>

修学上の相談・履修支援：辞書感覚で調べられる、在学生向けお役立ち Web サイト

- Support Anywhere <https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

IT インフラ・ツール：学内の IT サービスを網羅

- IT サービスナビ <https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

スポーツ：体育科目・体育各部のコーディネーター

- 競技スポーツセンター <https://www.waseda.jp/inst/athletic/>

ボランティア：社会貢献・ボランティア活動に興味がある

- 平山郁夫ボランティアセンター (WAVOC)
<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/>
ジェンダー・セクシュアリティ：イベントに参加して語り合う
- GS センター <https://www.waseda.jp/inst/gscenter/>
プロジェクト・プログラム：現役学生が新入生を応援
- こうはいナビ <http://www.wnpspt.waseda.jp/student/kouhainavi/>
プロジェクト・プログラム：国際学生寮で学ぶ社会人基礎力
- Social Intelligence プログラム
<https://www.waseda.jp/inst/rlc/wish/siprogram/>
プロジェクト・プログラム：ワセダとの「出会い」の場
- Hello! WASEDA <http://www.waseda.jp/external/hello/next.html>
プロジェクト・プログラム：異文化交流に関わるボランティア
- ICC (異文化交流センター) イベントサポーター
<https://www.waseda.jp/inst/icc/events/involve/>
プロジェクト・プログラム：ボーダーレスな異文化理解合宿
- ICC ノーボーダー・キャンプ <https://www.waseda.jp/inst/icc/>
プロジェクト・プログラム：自らの体験を後輩たちに役立てる
- 学生キャリアアドバイザー <https://www.waseda.jp/inst/career/>
プロジェクト・プログラム：学生同士語り合うことで“一歩踏み出す”
- fumidasu ワークショップ <https://www.waseda.jp/inst/sr/>
プロジェクト・プログラム：「本が好き」「図書館が好き」の一歩先へ
- 図書館ボランティアスタッフ LIVS
<https://www.waseda.jp/library/services/research-support/livs/>
プロジェクト・プログラム：留学経験者による情報発信
- 学生留学アドバイザー <https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/advisor>
プロジェクト・プログラム：学生の健康維持に貢献

学生早健会 <https://www.waseda.jp/inst/student/support/studenthealth>

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

大学 Web サイト：「学生の成長の場所」

https://www.waseda.jp/top/students#anc_2

インターンシップ：みらいへの羅針盤

- キャリアセンター <https://www.waseda.jp/inst/career/>
起業：ベンチャー企業の育成を通じ、イノベーションの創出を支援
- アントレプレナーシップセンター <https://www.waseda.jp/inst/entrepreneur/>
社会連携：社会を体感するプログラム
- 教育連携課 <https://www.waseda.jp/inst/sr/>
教職：教員就職を目指す学生を支援する
- 教員就職指導室 www.waseda.jp/fedu/tep/students/career
ボランティア：社会貢献・ボランティア活動に興味がある
- 平山郁夫ボランティアセンター (WAVOC) <https://www.waseda.jp/inst/wavoc/>
資格取得：誰でも学べる公開講座
- エクステンションセンター <https://www.wuext.waseda.jp/>
男女参画：誰もが能力を発揮できる環境づくり
- ダイバーシティ推進室 <https://www.waseda.jp/inst/diversity/>
プロジェクト・プログラム：実践型産学連携プロジェクト
- プロフェSSIONナルズ・ワークショップ
<https://www.waseda.jp/inst/sr/enterprise/>

プロジェクト・プログラム：世界の課題解決に貢献する

- ボランティアプロジェクト <https://www.waseda.jp/inst/wavoc/project/>
プロジェクト・プログラム：社会の課題と向き合う

- ボランティアプレゼンコンテスト
<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/volunteerfair/events/>

プロジェクト・プログラム：留学生とペアで異文化理解授業

- ICC アウトリーチ・プログラム <https://www.waseda.jp/inst/icc/>

プロジェクト・プログラム：災害の現状から学ぶ

- 災害・復興等支援ボランティア
<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/tag/resilience/>

プロジェクト・プログラム：ボランティアの現場を訪れる

- WAVOC スタディツアー <https://www.waseda.jp/inst/wavoc/>

プロジェクト・プログラム：多岐にわたる学生サークル・団体が活動中

- 公認ボランティアサークル <https://www.waseda.jp/inst/wavoc/project/>

プロジェクト・プログラム：地域課題の解決に学生視点で挑む

- 地域連携ワークショップ <https://www.waseda.jp/inst/sr/municipality/>

プロジェクト・プログラム：早稲田の顔として魅力を発信

- キャンパスツアーガイド <https://www.waseda.jp/top/about/work/campus-tours>

プロジェクト・プログラム：学生による早稲田文化の創造・発信

- 文化推進学生アドバイザー <https://www.waseda.jp/culture/about/adviser/>

プロジェクト・プログラム：アジアの学生が一堂に会し学び合う

- ASEP <https://www.waseda.jp/inst/cie/news/18809>

プロジェクト・プログラム：専門性を活かしたテーマがそろう

- 早稲田ボランティアプロジェクト
<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/project/>

プロジェクト・プログラム：実践型産学連携プロジェクト

- プロフェッショナルズ・ワークショップ <http://www.waseda.jp/wpo/propro/>

プロジェクト・プログラム：20年以上継続開催、伝統あるコンテストは起業家を輩出中

ビジネスプランコンテスト <https://www.waseda.jp/fcom/riba/education/contest>

プロジェクト・プログラム：企画力を活かし学生参画活動を実施

- 学生参画・ジョブセンター学生スタッフ <http://www.waseda.jp/sjc/top/>

プロジェクト・プログラム：学生生活や進路について考える

- みらい設計支援 <https://www.waseda.jp/inst/career/>

プロジェクト・プログラム：学生と校友の交流イベント

- 先輩と語ろう！ <http://www.wasedaalumni.jp/fun/senpai.html>

プロジェクト・プログラム：地域で活躍する先輩から学ぶ

- 先輩に会いに行こう！ <https://www.waseda.jp/inst/sr/alumni/>

プロジェクト・プログラム：教員就職のための支援拠点

- 教員就職支援 <https://www.waseda.jp/fedu/tec/students/career>

プロジェクト・プログラム：先輩をロールモデルとして自分の「生き方」を考える

- 先輩の声・経験から学ぶ <https://www.waseda.jp/inst/career/tag/voice/>

プロジェクト・プログラム：実践的な就業体験からキャリアを考える

- インターンシップ・公認プログラム WIN
<https://www.waseda.jp/inst/career/internship/win/>

プロジェクト・プログラム：就業体験を通じて働くイメージを具体化

- インターンシップ・提携プログラム
<https://www.waseda.jp/inst/career/internship/partnership/>

プロジェクト・プログラム：起業の知識を実践的に修得 WASEDA EDGE https://waseda-edge.jp/
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 大学 Web サイト：「学生の成長の場所」 https://www.waseda.jp/top/students#anc_2 悩み・健康：困った時には相談を • 学生生活課 https://www.waseda.jp/inst/student/ 障がい学生支援：全学生が同じ環境で学ぶために • 障がい学生支援室 https://www.waseda.jp/inst/dsso/ 奨学金：学生生活を経済的にサポート • 奨学課 https://www.waseda.jp/inst/scholarship/ 就職・キャリア形成：みらいへの羅針盤 • キャリアセンター https://www.waseda.jp/inst/career/ 悩み・健康：授業や在籍、課目履修の相談窓口 • 学部・大学院事務所 https://www.waseda.jp/top/academics/ 悩み・健康：心と身体の相談所 • 保健センター https://www.waseda.jp/inst/hsc/ ハラスメント：大学を快適な「場」とするために • ハラスメント防止委員会（コンプライアンス推進室 https://www.waseda.jp/inst/harassment/ • ジェンダー・セクシュアリティ：知識のある専門職員が対応します • GS センター https://www.waseda.jp/inst/gscenter/

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： 早稲田大学 Web サイト 教育研究上の目的 https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/organization-and-purpose 研究に関する情報 https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/research 研究活動 https://www.waseda.jp/inst/research/
--